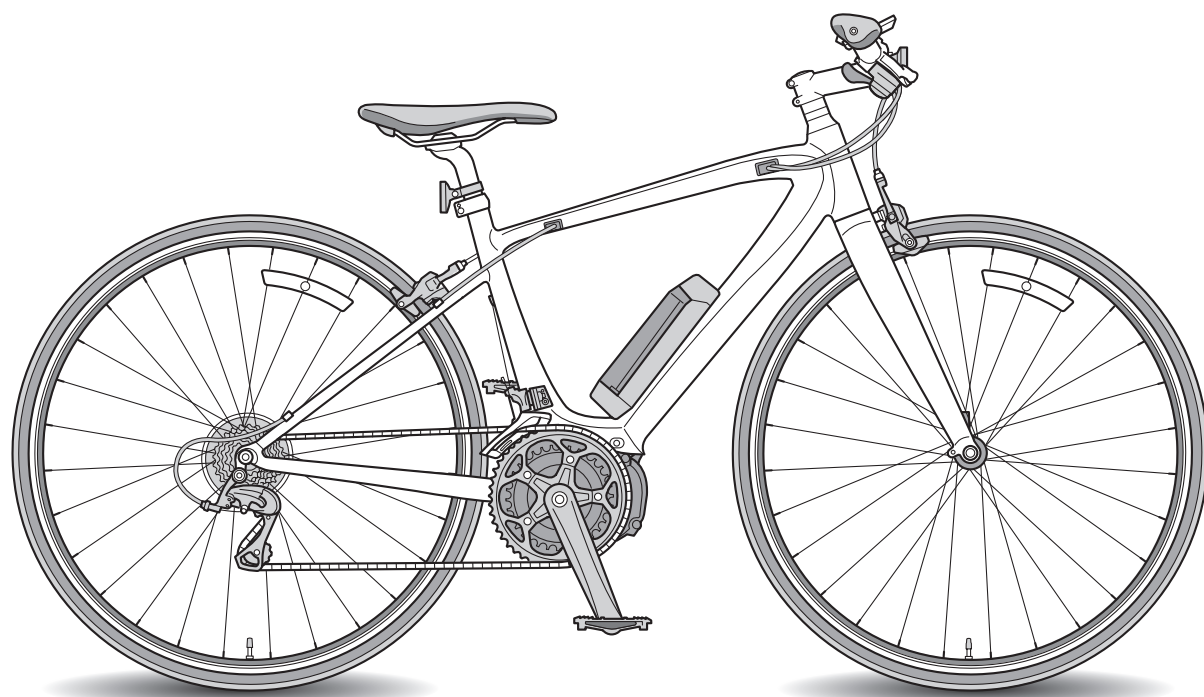


取扱説明書

YPJ-C

〔ワイ ピー ジェイ シー〕 機種名: PW70CM, PW70CXS



前書き

このたびは、ヤマハ〈YPJ〉をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。ヤマハ〈YPJ〉は電動補助システムを装備している自転車です。

お乗りいただく前に必ず本書をお読みいただき、本製品をご理解の上、ご使用ください。

また、『ヤマハ〈YPJ〉点検・整備の記録』、『お客様ご相談窓口のご案内』も合わせてお読みください。

- この〈YPJ〉は一般乗車用として設計されています。新聞配達などの業務用としてご使用にならないでください。
- 納車時に販売店から、使用方法について充分に説明をお受けください。
- 安全のため、ヘルメットの着用をお勧めします。
- お子様がお使いになる場合は、保護者の方が本書を必ずお読みいただき、正しい乗りかたをご指導ください。
- 本書と保証書／点検・整備の記録は、紛失しないよう大切に保管し、ご活用ください。
- 保証書は「販売店名、お買い上げ日」などの記入を確かめて販売店からお受け取りください。記入がもれている場合は、販売店にご請求ください。
- この〈YPJ〉を他の人にお譲りになる場合は、本書も一緒にお渡してください。
- 製品保証登録は、ご購入後 7 日以内にヤマハ発動機〈YPJ〉公式ページ「製品保証登録はこちら」よりご登録ください。インターネット環境がない場合は、製品保証登録票ハガキでも登録できます。

YPJ 保証登録

検索

本書では、正しい取り扱いおよび点検・整備に関する必要な事項を下記のシンボルマークで区分しています。

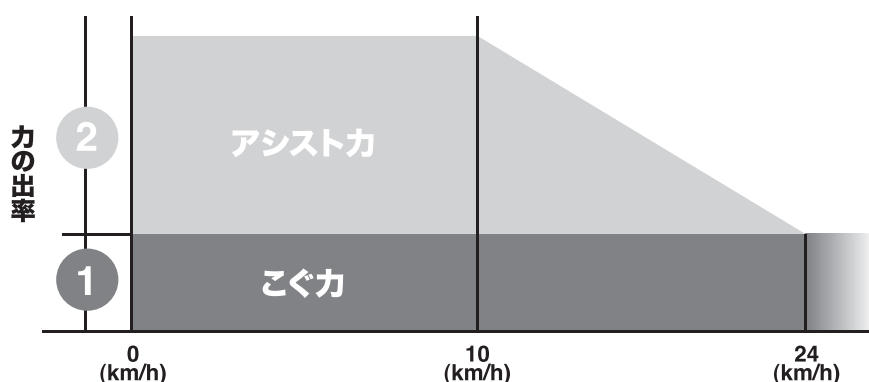
	安全にかかわる注意情報を示してあります。
 警告	取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。
注意	取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。
要 点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。
	安全上してはいけない「禁止」内容を意味しています。

はじめに

ヤマハ< YPJ >の特長

電動補助（パワーアシスト）システムにより最適なアシスト力が得られます

- ペダルを踏む力や走行速度、変速位置などに応じて、基準の範囲内でアシストをします。
- 発進から時速 10km に達するまでは、ペダルを踏む力“1”に対して最大で“2”の力でアシストすることができます。時速 10km を超えるとしだいにアシスト力を弱めていき、時速 24km でアシストをゼロにします。



こんなときは電動補助（パワーアシスト）システムが作動しません。

- スイッチユニットの電源が切れているとき
- 時速 24km 以上のスピードで走っているとき
- ペダルをこがないとき
- アシストオフモードのとき
- バッテリー残量がなくなったとき
- 自動電源オフ機能が作動したとき
- 走行することができなくなる故障や異常が発生したとき

4 種類の［走行モード］を装備しています

走行状況に合わせて、ハイモード、スタンダードモード、エコモード、アシストオフモードの 4 種類から［走行モード］を選べます。走行モードの切り替えかたは「**走行モード切替ボタン**」(26 ページ)を、走行モードの選びかたは「**上手な走行モードの選びかた**」(66 ページ)をご参照ください。

ハイモード	急な坂道を登るときなど、より楽に走りたいときに適しています。
スタンダードモード	平坦な道や緩やかな坂道を登るときに適しています。
エコモード	できるだけ長い距離を走りたいときに適しています。
アシストオフモード	普通自転車として走りたいときに適しています。

トリプルセンサーシステムを採用しています

「トルクセンサー（ペダルを踏む力を検出）」と「スピードセンサー（走行速度を検出）」に加えて、「クランク回転センサー」でリアルタイムにペダル（クランク）を回す速さを検出し、自然な乗り心地を実現します。

自動電源オフ機能を備えています

スイッチユニットの電源が入った状態で停車したまま5分間以上ペダルに踏む力がかけられない場合、バッテリー消費を軽減するために自動的に電源が切れる機能を備えています。

自動電源オフ機能が作動した後もスイッチユニットの電源ボタンを押すと、再び電源が入ります。

バッテリー残量が無くなっても普通の自転車として走行可能です

万一走行中にバッテリー残量が無くなっても、またバッテリーを取り外しても、普通自転車として走行することができます。

もくじ

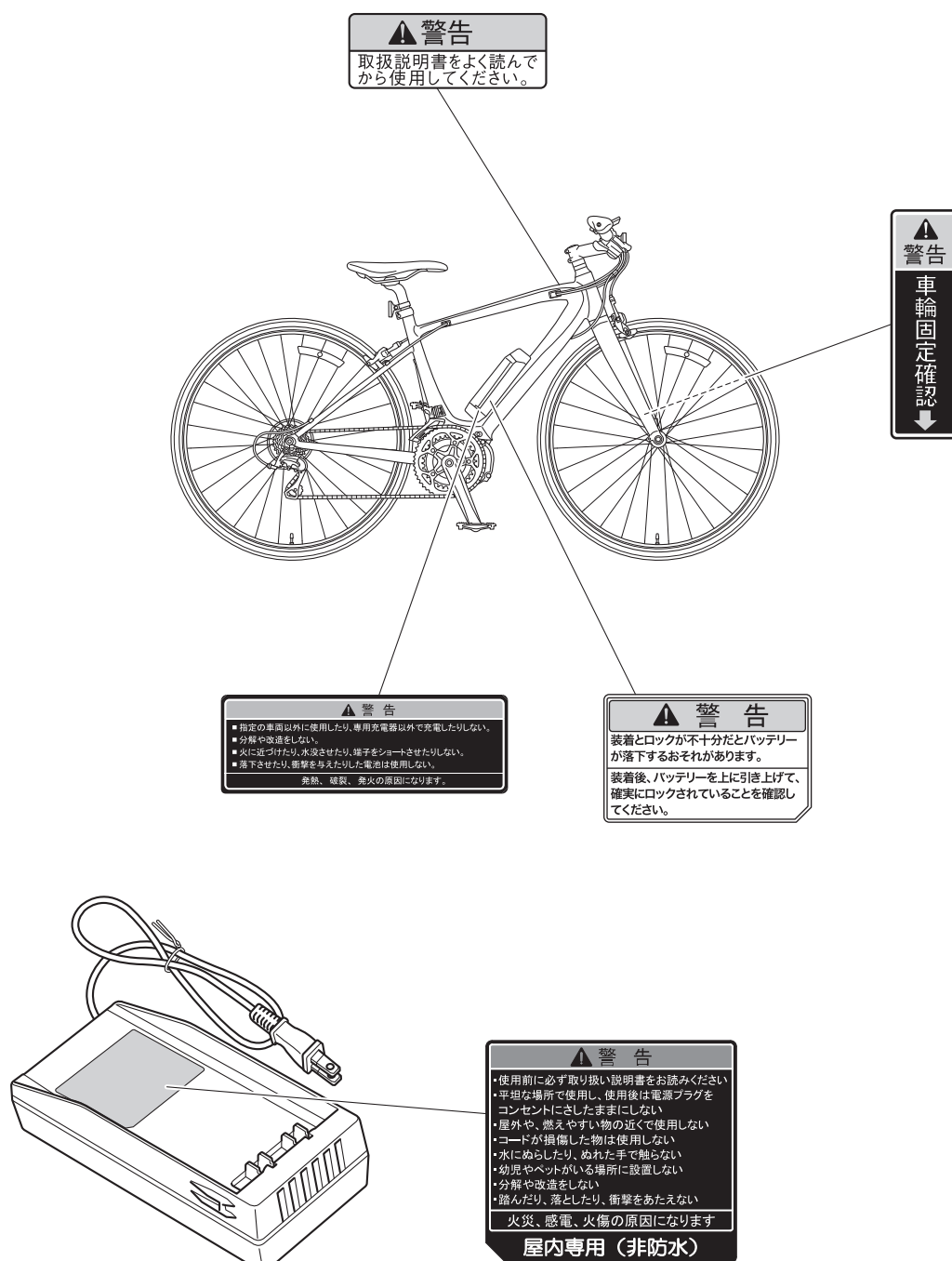
1章	1 章 安全上のご注意 5
	重要ラベルについて 5
	YPJ ご使用中 転倒や衝突事故を 防ぐために 6
2章	YPJ ご使用中 けがを防ぐために 10
	バッテリーの取り扱い中 感電や火災を防ぐために 14
	充電器の取り扱い中 感電や火災を防ぐために 15
3章	充電中 感電や火災を防ぐために 17
	バッテリー・充電器の保管中 事故を防ぐために 18
4章	自転車の交通ルールを守りましょう 19
	お乗りになる前の調整 22
5章	2 章 各部の名称 24
	右側面 24
	左側面 24
6章	ハンドル周り 25
	スイッチユニットと 液晶マルチファンクション ディスプレイ 25
7章	3 章 各部の取り扱いと操作 26
	スイッチユニット 26
	液晶マルチファンクション ディスプレイ 28
8章	液晶マルチファンクション ディスプレイの取り外し・取り付け・ 角度調整 32
9章	バッテリーロック 34
	変速レバー 34
	ハンドルブラケット 36
	クイックリリースハブ 38
10章	USB アダプター 42
11章	4 章 バッテリーの充電 44
	YPJ のバッテリー 44
	充電に適した環境 44
	充電のしかた 45
	充電時間 47
12章	充電の確認 48

50	5 章 お乗りになる前に 50
	乗車前点検 50
	バッテリー残量の確認 58
	充電あたりの走行できる距離 60
	走行距離が短くなる環境や使いかた 61
	荷物を積載するには 62
63	6 章 乗りましょう 63
	発進のしかた 63
	ブレーキのかけかた 64
	降車のしかた 64
	快適に走行するために 66
67	7 章 定期点検 67
	初回点検（2 か月目点検）と 定期点検 67
68	8 章 お手入れと保管 68
	お手入れのしかた 68
	保管のしかた 70
	長期保管（1 か月以上）と 長期保管後の再使用 72
	時刻調整のしかた 72
	液晶マルチファンクション ディスプレイ内蔵ボタン電池の 交換のしかた 73
75	9 章 もしもこんなときは 75
	故障かな？と思ったら 75
79	10 章 ごぞんじですか？ 79
	バッテリーの特性 79
	バッテリーの寿命と交換 79
	保証制度 81
	型式認定済 TS マーク 81
	普通自転車点検整備済 TS マーク （保険つき） 81
	自転車保険加入の勧め 81
	ヤマハ〈YPJ〉盗難保険について 82
	車両情報 84
	廃棄するときは 85
86	11 章 製品仕様 86
88	12 章 索引 88

1 章 安全上のご注意

重要ラベルについて

「重要ラベル」は、以下の位置に貼付されています。車体や充電器などに貼付されている「重要ラベル」をよくお読みいただき、安全にご使用ください。



1 章 安全上のご注意

1 章

YPJ ご使用中 転倒や衝突事故を防ぐために

！ 警 告

安全な服装で乗車する

長いマフラー、すそが広いズボン、長いスカート、滑りやすい靴やかかとの高い靴などは避けてください。

車輪やチェーンへの巻き込みなどにより、転倒によるけがのおそれがあります。また、足がペダルから外れ、転倒によるけがのおそれがあります。

- すそが広がっているズボンは、すそをバンドやゴムで留めてください。



電動アシスト自転車に慣れるまでは、車が通らない平坦な場所（自転車を取り入れても良い公園や広場など）で十分に練習する
転倒や衝突事故によるけがのおそれがあります。

- 電動アシスト自転車に慣れるまでは「スタンダードモード」で走行してください。
- 周囲の安全確認をしてから練習してください。



乗車前点検は必ず実施する

取扱説明書をよくお読みいただき、必ず点検を実施してください。点検の結果、異常が認められた場合は、すぐに販売店で点検をお受けください。異常のまま使用すると、衝突や転倒によるけがのおそれがあります。

また、わからないときは販売店にご相談ください。

夜間走行するとき、およびトンネル内や暗がり走行するときは、必ず前照灯を装備し点灯する

周囲の状況が確認できず転倒や衝突事故によるけがのおそれがあります。

また、無灯火での走行は法令により禁止されています。

- 前照灯の購入や取り付けについては、販売店にご相談ください。

1 章 安全上のご注意

1 章

YPJ ご使用中 転倒や衝突事故を防ぐために

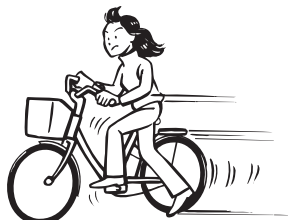
！ 警 告

けんけん乗り*をしない

転倒や接触事故によるけがのおそれがあります。

- 必ずサドルにまたがって、発進してください。

* けんけん乗りとは、片足でペダルをこぎながら助走し、反動をつけてサドルにまたがる乗り方です。



カーブで曲がる側のペダルを下げない

ペダルが地面と接触し、転倒によるけがのおそれがあります。



発進時はペダルを強く踏み込みすぎない

思わぬ急発進により転倒や衝突事故によるけがのおそれがあります。

- 一般の自転車のように強く踏み込まなくても、楽に発進することができます。



片側だけのブレーキ操作はしない

スリップして、転倒によるけがのおそれがあります。

- ブレーキは必ず前後ともにかけてください。



停車中はペダルに足を乗せない

不用意なアシスト力が働き転倒や接触事故によるけがのおそれがあります。

- 停車中は前後のブレーキをかけてください。



急ハンドル、急ブレーキはしない

スリップして、転倒によるけがのおそれがあります。

1 章 安全上のご注意

1 章

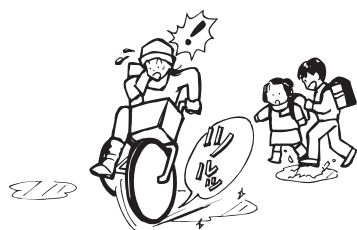
YPJ ご使用中 転倒や衝突事故を防ぐために

警告

滑りやすいところでは乗らない

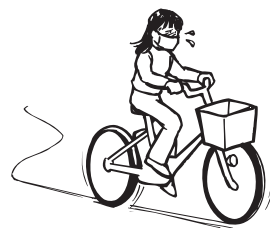
積雪や凍結した道、ぬれている鉄板やマンホール、点字ブロック、ぬかるみなどでは、スリップして転倒によるけがのおそれがあります。

- YPJ から降りて、押して歩いてください。



かぜ薬など服用時、および体調が優れないときは乗らない

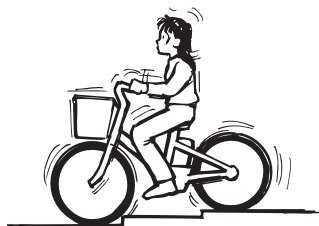
体調不良時は運動機能が低下し、衝突などによるけがのおそれがあります。



凹凸の激しいところを走らない（歩道の段差や、溝など）

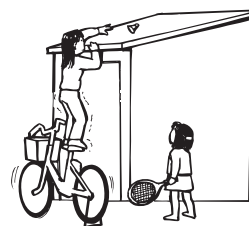
フレームや車輪、またはドライブユニットなどが損傷し、転倒によるけがのおそれがあります。

- YPJ から降りて、押して歩いてください。



踏み台代わりなど走行以外に使わない

転倒によるけがのおそれがあります。



乱暴な乗りかたはしない

アクロバットのな乗りかたや急発進・急旋回をすると、転倒や落車などによるけがのおそれがあります。



YPJ が完全に止まってから降りる

YPJ が完全に止まる前に飛び降りるようにして降りると、バランスを崩して転倒やけがのおそれがあります。

1 章 安全上のご注意

1 章

YPJ ご使用中 転倒や衝突事故を防ぐために

警告

手やハンドルに荷物や傘をかけたり、ペットをつながない

荷物やひもが車輪に巻き込まれたり、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれがあります。

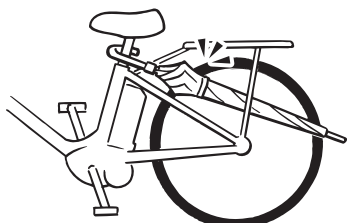


スポークの間に物をはさんで走らない
車輪に巻き込まれるなどして転倒によるけがのおそれがあります。



傘やステッキ、釣り竿などを車体に差し込んだり、車輪の近くにつり下げて走らない

車輪に巻き込んだり、他の人や物にぶつけて事故や転倒によるけがのおそれがあります。



チャイルドシートを使用しても2人乗りをすることはできません

この YPJ は、チャイルドシート（別売アクセサリ品を含む）を使用して2人乗りができる設計をしていません。

1 章 安全上のご注意

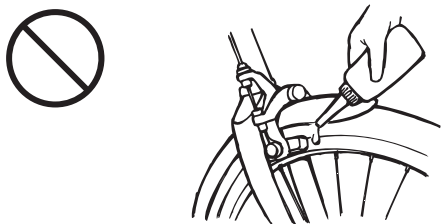
1 章

YPJ ご使用中 けがを防ぐために

警告

ブレーキの制動面やタイヤ、リムに注油しない

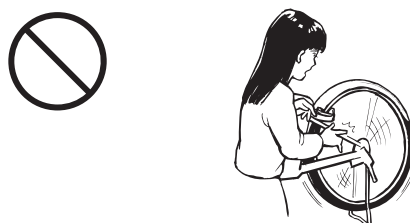
ブレーキが効かなくなり、衝突によるけがのおそれがあります。



車輪・チェーンなどの回転部に手や足、物などを近づけない

また、子どもを近づけない

車輪やチェーンに巻き込まれ、けがをするおそれがあります。



改造や分解はしない

部品が破損したり、外れたりして転倒によるけがのおそれがあります。



ハブステップなどの突起物を装着しない

歩行者などに危害をおよぼすおそれがあります。



純正部品を使用する

純正部品以外の取り付けは、事故や故障の原因になることがあります。

- 純正部品以外を使用すると保証の適応が受けられない場合があります。

ヘルメットをかぶらずに幼児や 13 歳未満の児童が乗車しない

幼児や 13 歳未満の児童が乗車するときは、ヘルメットをかぶせてください。

YPJ ご使用中 けがを防ぐために

！ 警 告

サドルの高さ調整をするときは、引き上げ限界線が見えない範囲で調整する

シートポストが破損したり脱落したりして、けがをするおそれがあります。

- シートバンドの締め付けボルトをゆるめ、サドルの高さを調節します。このとき、引き上げ限界線が見えない範囲で調整してください。



調整後はサドルが確実に固定されていることを確認する

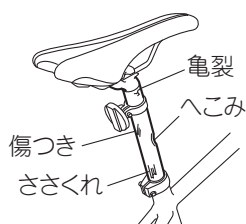
サドルが確実に固定されていないと、安定した走行に支障をきたすことに加えて、シートポストが破損したり脱落したりして、けがをするおそれがあります。



シートポストに傷つき、ささくれ、へこみ、または亀裂があるときは使用しない

シートポストが破損したり脱落したりして、けがをするおそれがあります。

- 異常がある場合は、販売店にご相談ください。



シートバンドの締め付けボルトを締め付けすぎない

指定の締め付けトルクを超えてボルトを締め付けると、シートポストが破損したり脱落したりして、けがをするおそれがあります。

- ご自身での作業に自信がない方は、販売店にご依頼ください。

1 章 安全上のご注意

1 章

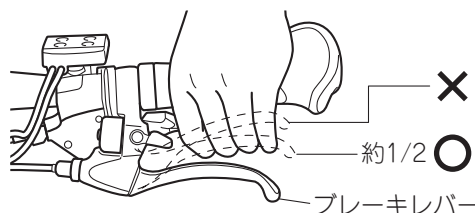
YPJ ご使用中 けがを防ぐために

警告

ブレーキが確実に作動するか点検する

ブレーキは使うたびにブレーキシューは摩耗し、ブレーキワイヤーは伸びてその都度調整を必要とします。ブレーキレバーを握ったときに、ブレーキレバーとグリップの隙間で調整状態を確認します。調整不良の場合はブレーキが効かなくなり、衝突や転倒によるけがのおそれがあります。

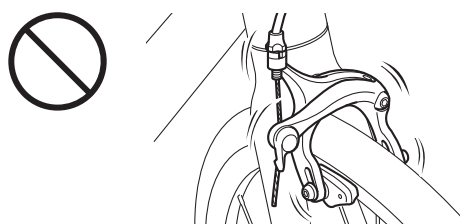
- すぐに販売店で点検・整備をお受けください。



ブレーキの取り付け部にゆるみやがたつきがないか点検する

異常があるとブレーキが効かなくなり、衝突や転倒によるけがのおそれがあります。

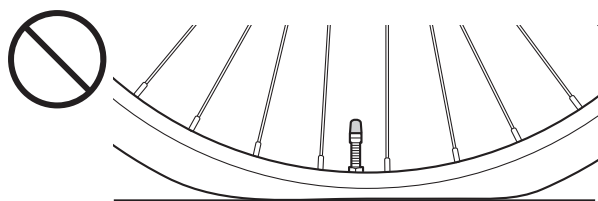
- すぐに販売店で点検・整備をお受けください。



タイヤの空気圧を点検し、不適正の場合は空気圧を調整する

異常があると安定した走行に支障をきたし、転倒によるけがのおそれがあります。

- お乗りいただく前に空気圧を調整してください。



1 章 安全上のご注意

1 章

YPJ ご使用中 けがを防ぐために

！ 警 告

ハンドルを操作したときに引っかかり感が
ないか確認する

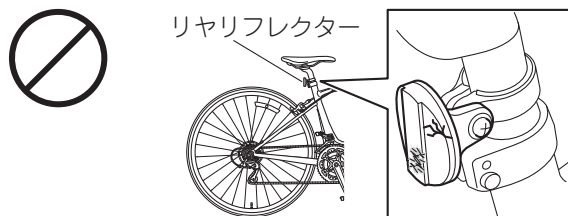
異常があると走行中にハンドル操作ができ
なくなり、転倒によるけがのおそれがありま
す。

- 異常がある場合はすぐに販売店で点検・整
備をお受けください。

リヤリフレクターに汚れや破損がある場合は
夜間乗らない

異常があると夜間走行時の被視認性が悪くな
り、衝突されるおそれがあります。

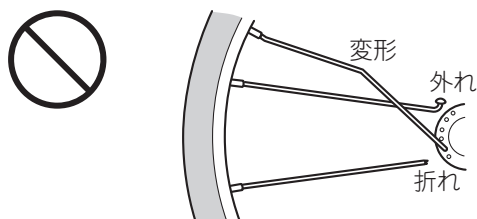
- 汚れはふき取ってください。
- 破損している場合は、すぐに販売店で点
検・整備をお受けください。



前後車輪のスPOークが折れたり、外れたり、
変形していないか点検する

異常があると安定した走行に支障をきたし、
転倒によるけがのおそれがあります。

- すぐに販売店で点検・整備をお受けくださ
い。



ベルが鳴るか点検する

異常があると緊急時の警告に支障をきたし、
衝突のおそれがあります。

- すぐに販売店で点検・整備をお受けくださ
い。

タイヤが摩耗していないか点検する

異常があると安定した走行に支障をきたし、
転倒によるけがのおそれがあります。

- すぐに販売店で点検・整備をお受けくださ
い。

1 章 安全上のご注意

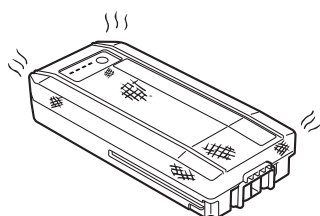
1 章

バッテリーの取り扱い中 感電や火災を防ぐために

警告

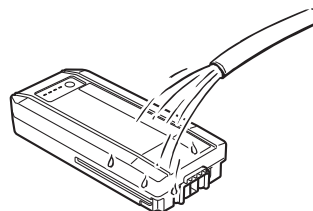
バッテリーケースに破損や傷つきがあるとき、または異臭がするときは使用しない
液漏れなどにより、やけどやけがなどのおそれがあります。

- 異常を感じたときは、すぐに販売店にご相談ください。



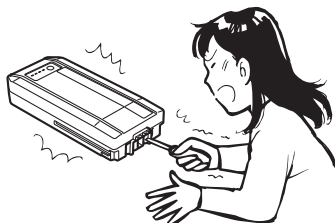
バッテリーに水をかけたり、水の中に入れない

発熱、発火、破損、故障の原因となります。



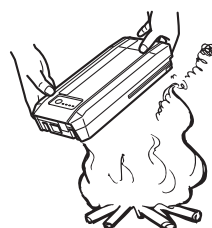
バッテリー底部の接点を短絡（ショート）させない

発熱、発火、感電の原因となります。



バッテリーを火中に投入したり、過熱しない

発熱、発火、破損、故障の原因となります。



バッテリーを落としたり、衝撃を与えない

発熱、発火、破損、故障の原因となります。

バッテリーの分解や改造をしない

発熱、発火、破損、故障の原因となります。

専用充電器を使用する

発熱、発火、破損、故障の原因となります。

改造・加工などをしたバッテリーパックは使用しない

発熱、発火、破損、故障の原因となります。

注意

バッテリーを他の電気機器に使用しない

他の電気機器に使用すると故障の原因となります。

1 章 安全上のご注意

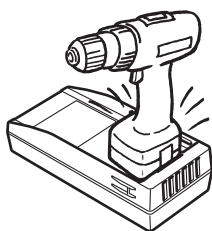
1 章

充電器の取り扱い中 感電や火災を防ぐために

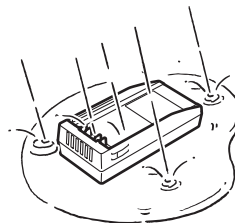
警告

YPJ 専用充電器は他の電気機器に使用しない

他の電気機器などに使用すると、火災や破裂の原因になります。



充電器を水でぬらしたり、雨中で使用しない
感電や火災、故障の原因になります。

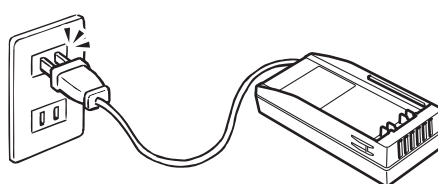


充電端子を金属などで短絡（ショート）させない

発熱、発火、感電の原因となります。

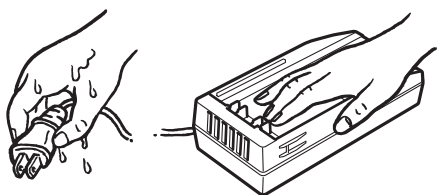


電源プラグは根元まで確実に差し込む
差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。



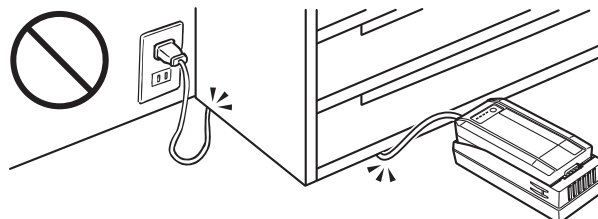
ぬれた手で電源プラグを取り扱ったり、充電端子に触れたりしない

感電するおそれがあります。



コードの上に物を乗せたり、はさんで固定しない

感電や火災の原因になります。



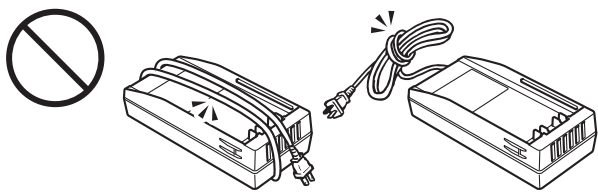
1 章 安全上のご注意

1
章

充電器の取り扱い中 感電や火災を防ぐために

！ 警 告

コードを束ねた状態で使用したり、充電器本体に巻きつけて保管しない
コードの損傷により、感電や火災などの原因となるおそれがあります。



充電端子にボタン電池や乾電池を接触させない
破裂・発火のおそれがあります。

充電器を分解したり、改造しない
感電や火災の原因になります。

充電器を落としたり、衝撃を与えない
発熱、発火、破損、故障の原因となります。

1 章 安全上のご注意

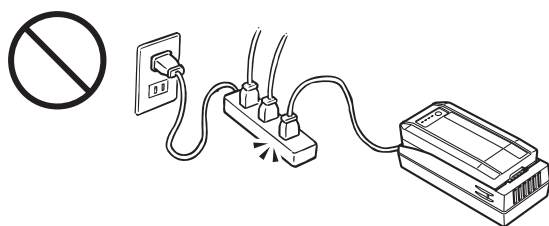
1 章

充電中 感電や火災を防ぐために

警告

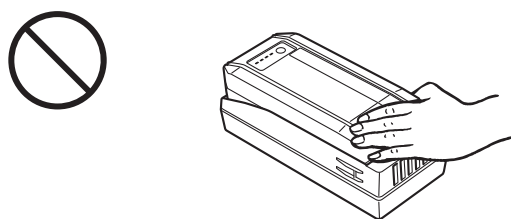
コンセントや配線器具の定格を超える使いかたはしない

たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

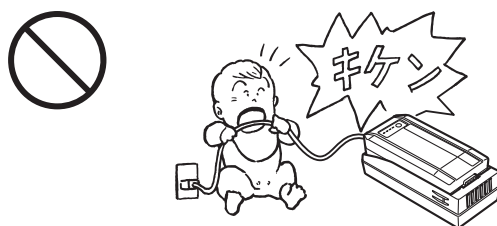


充電中は長時間、皮膚を充電器の同じ場所に触れさせない

充電中は 40℃～60℃になる場合があります、低温やけどのおそれがあります。

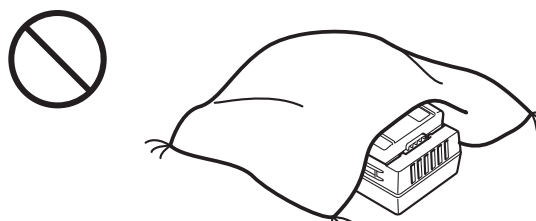


幼児やペットが触れるところに放置しない
感電や火災、故障の原因になります。



充電中に周囲にカバーをしたり、上に物を置かない

内部が発熱し、火災のおそれがあります。



ガソリンなどの引火物や引火性ガスの近くでは充電しない

火災や爆発などの原因となることがあります。

コードが損傷しているときは使用しない
感電や火災のおそれがあります。

電源プラグのほこりなどは定期的に取り
湿気などで絶縁不良となり、火災の原因になります。

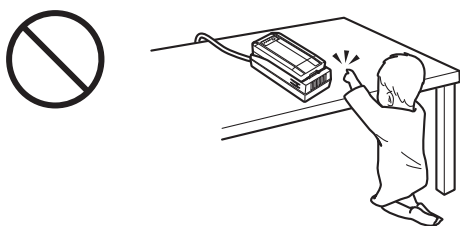
1 章 安全上のご注意

1 章

バッテリー・充電器の保管中 事故を防ぐために

警告

バッテリーや充電器を幼児やお子様の手の届くところに置かない
落下してけがをするおそれがあります。



1 章 安全上のご注意

1 章

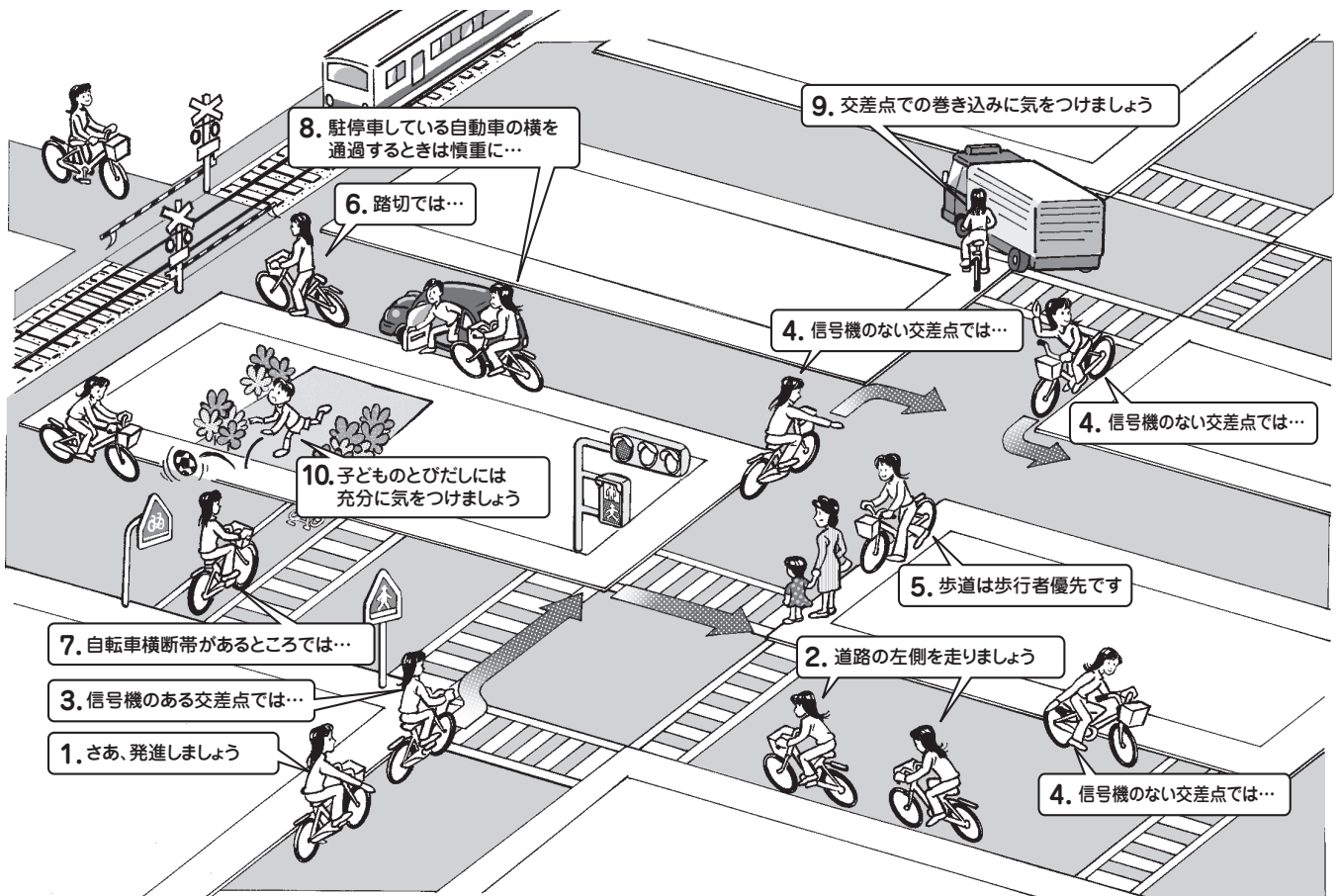
自転車の交通ルールを守りましょう

！ 警 告

快適に、そして安全に乗るために交通ルールを守って安全運転を心がけましょう。交通ルールを守らないと、衝突や転倒などによるけがのおそれがあります。

法令を遵守した走行をしましょう。飲酒運転、2人乗り、並進^{*1}、片手運転、無灯火運転、車道（路側帯）の右側通行などは法律により禁止されています。違反すると、道路交通法の罰則を受けることがあります。

^{*1}「並進可」標識がある場合を除きます。



1. さあ、発進しましょう

周囲の安全を確認して、道路の左側から発進します。

右手を地面と平行に真横にだして、後方から来る車にスタートの合図をします。

2. 道路の左側を走りましょう

自転車は、車道の左側通行が原則です。

1 章 安全上のご注意

1 章

3. 信号機のある交差点では …

信号をしっかり守り、横断しましょう。

正面の信号が青のとき、直進、左折ができます。

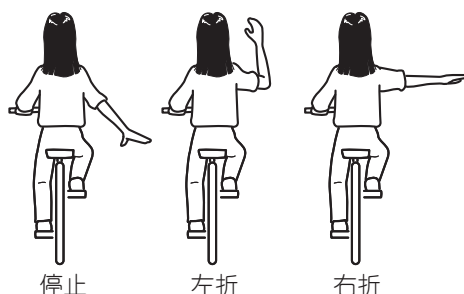
右折するときは、2段階右折をしてください。2段階右折のしかたは、正面の信号が青になったら一旦向こう側までわたり、止まります。次に右側の信号が青になってから進みます。

4. 信号機のない交差点では …

信号機のない見通しの悪い交差点では、周囲の安全を充分に確かめてから進みます。

曲がるとき、止まるときは合図をしましょう。右折・左折とも、30m くらい手前から合図をだします。

- 右折の合図は、右手を地面と平行に真横にだします。
- 左折の合図は、右手を地面と平行に真横にだし、さらにひじを直角に上に曲げます。
- 停止の合図は、右手を斜め下にだします。



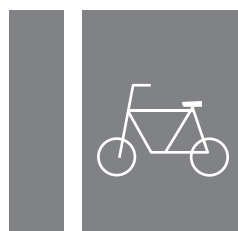
5. 歩道は歩行者優先です

『自転車および歩行者専用』の標識や表示があるところでは、歩道を通行することができますが、通行できる部分が指定されている場合は指定された部分を、指定されていない場合は歩道中央から車道よりの部分を、徐行しながら通行します。

また、歩行者の通行を妨げるおそれのある場合は、一時停止します。



自転車および
歩行者専用標識



普通自転車の
歩道通行部分

6. 踏切では …

踏切の手前で停車し、自転車の左側に降りてください。遮断機が上がっているときも踏切の手前で停車し、左右の安全を確認してからわたりましょう。

7. 自転車横断帯があるところでは …

自転車横断帯があるところを通行しなければなりません。

1 章 安全上のご注意

1 章



8. 駐停車している自動車の横を通過するときは慎重に …

駐停車中、または渋滞などで止まっている自動車は、急にドアが開くおそれがあります。あらかじめスピードを十分に落としてから通過するようにしましょう。

9. 交差点での巻き込みに気をつけましょう

交差点はいちばん事故が起こりやすいところです。とくに大型車の左折による巻き込み事故に十分に気をつけましょう。また、自分が左折するときも、周囲の安全を確かめてから曲がるようにしましょう。

10. 子どものとびだしには充分に気をつけましょう

近くに公園や学校があるような道路では、とくに子どものとびだしに気をつけましょう。

スピードのだしすぎや急ブレーキはやめましょう

- 下り坂や雨の日、ぬれた路面などは、滑りやすいのでブレーキ操作に気をつけましょう。
- ブレーキがぬれているときは制動距離が長くなりますので、スピードは控えめにしましょう。
- カーブや交差点などではスピードを十分に落とし、ゆとりあるブレーキ操作で安全運転を心がけましょう。
- ブレーキをかけるときは、必ず前後ともにかけます。前後どちらか片方だけのブレーキ操作は、転倒や横滑りの原因になります。
- 長い下り坂でブレーキをかけっぱなしにすると、ブレーキが加熱して効かなくなるおそれがあります。前後ブレーキを小刻みにかけるようにしましょう。

『止まれ』の標識があるところでは …

『止まれ』の標識の手前で一旦停車し、周囲の安全を確認してから走り出しましょう。



横断歩道をわたるときは一時停止を忘れずに！

横断歩道の手前で一旦停車し、左右の安全を確認してから進みましょう。

1 章 安全上のご注意

1 章

お乗りになる前の調整

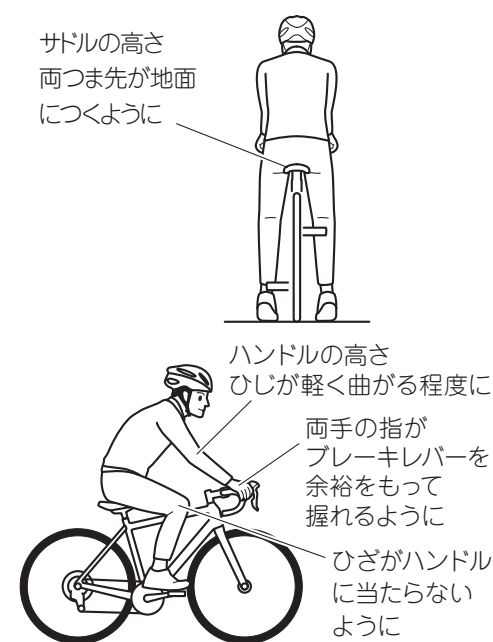
正しい運転姿勢になるようにサドルの高さ、ハンドルの高さおよびブレーキレバーの位置を調整してください。

サドルの高さ調整、ブレーキレバーの位置調整、およびハンドルの高さ調整は工具が必要です。調整が必要な場合は販売店にご相談ください。

正しい運転姿勢

サドルに腰掛け、両手をハンドルに軽くかけた状態で、以下のようになります。

- 両足のつま先が確実に地面につく
- 両ひじは軽く曲がる
- ひざがハンドルに当たらない
- 両手の指がブレーキレバーを余裕をもって握れる



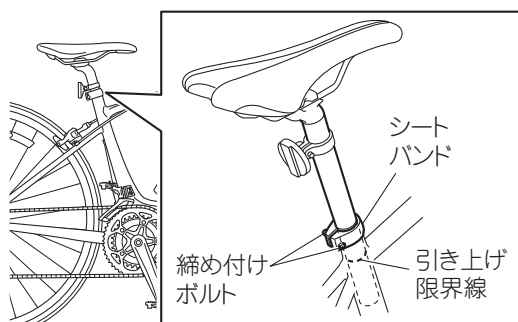
サドルの高さ調整のしかた

両足のつま先が地面につくよう、サドルの高さを調整します。

⚠ 警告

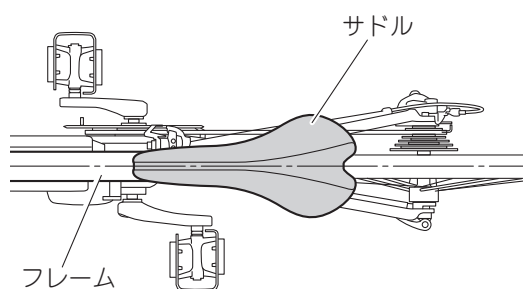
- ご自身での調整作業に自信がない方は、販売店にご依頼ください。
- 安全な場所で、車両を停車させて行ってください。
- 引き上げ限界線が見えるまで引き上げないでください。
- 調整後はガタやずれがないかご確認ください。

サドルの高さ調整は、次の方法で調整してください。



1 章 安全上のご注意

1 章



1 シートバンドの締め付けボルト 2 本をゆるめます

2 サドルの高さと向きを調整した後、シートバンドの締め付けボルトを締め付けます

⚠ 警告

指定の締め付けトルクを超えてボルトを締め付けると、シートポストが破損したり脱落したりして、けがをするおそれがあります。

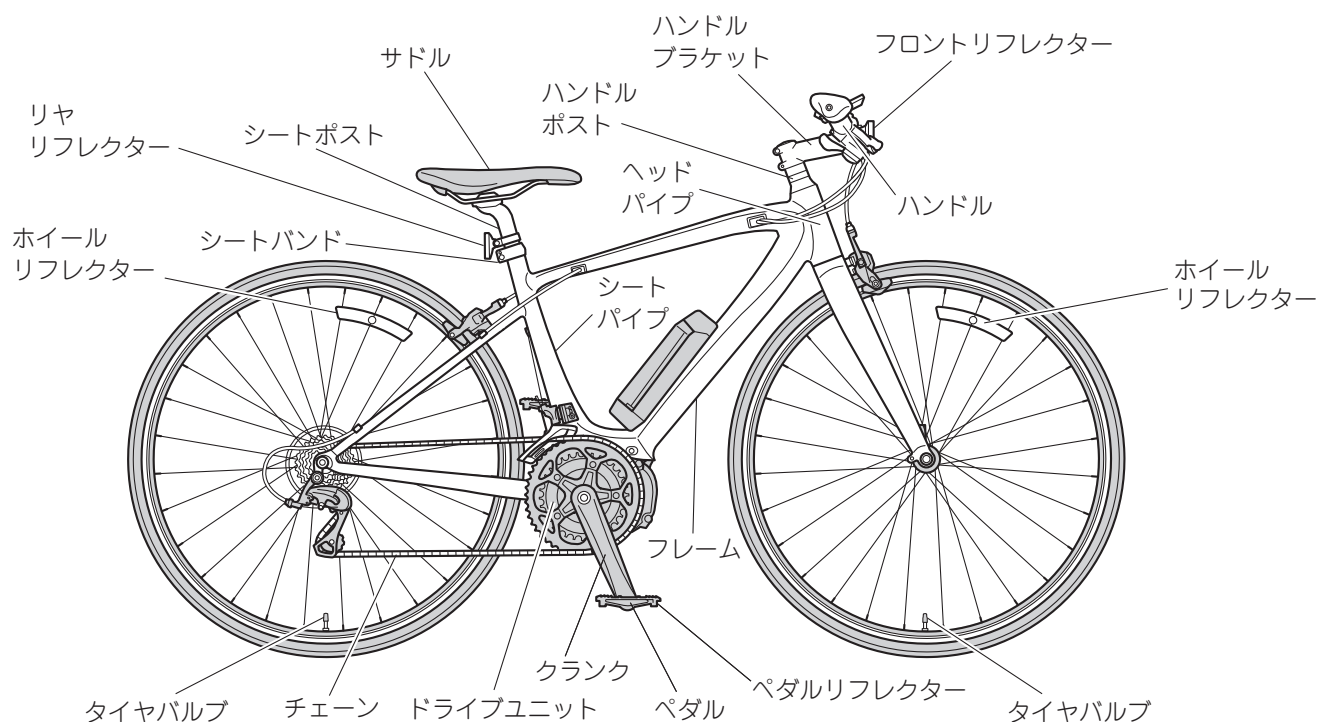
シートバンド締め付けトルク：
4 ～ 5N・m (0.4 ～ 0.5kgf・m)

ハンドルの高さ調整のしかた

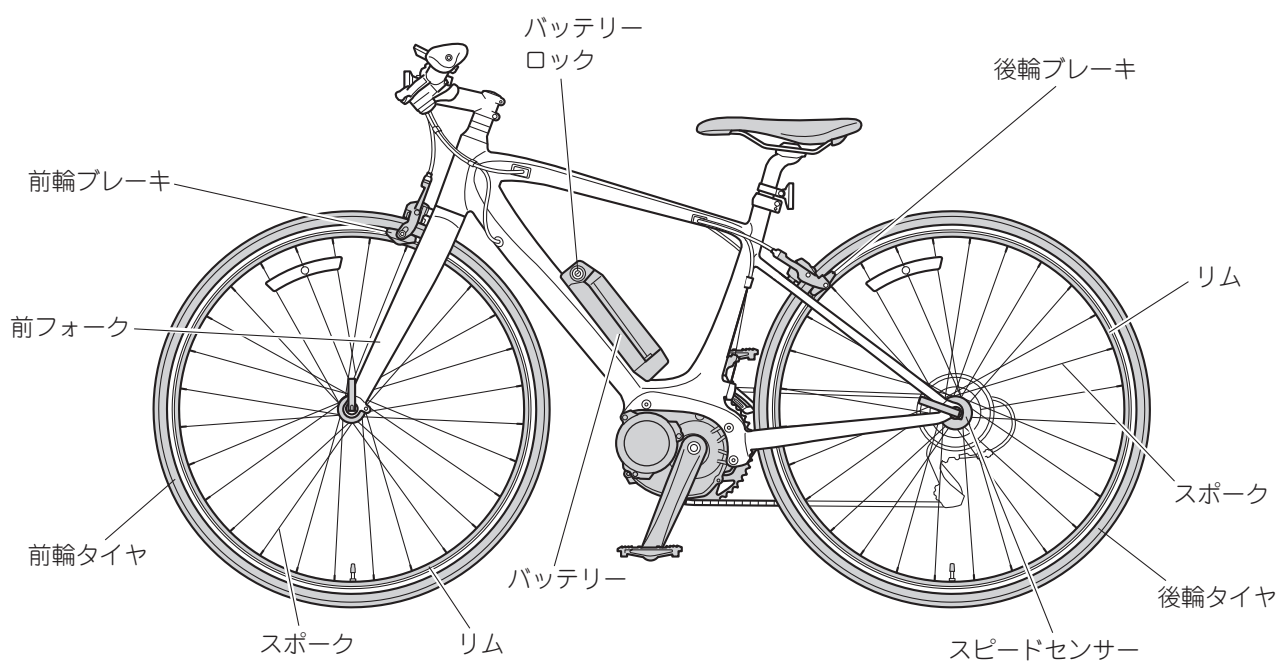
ハンドルの高さ調整については「ハンドルブラケット」(36 ページ) をご参照ください。

2 章 各部の名称

右側面



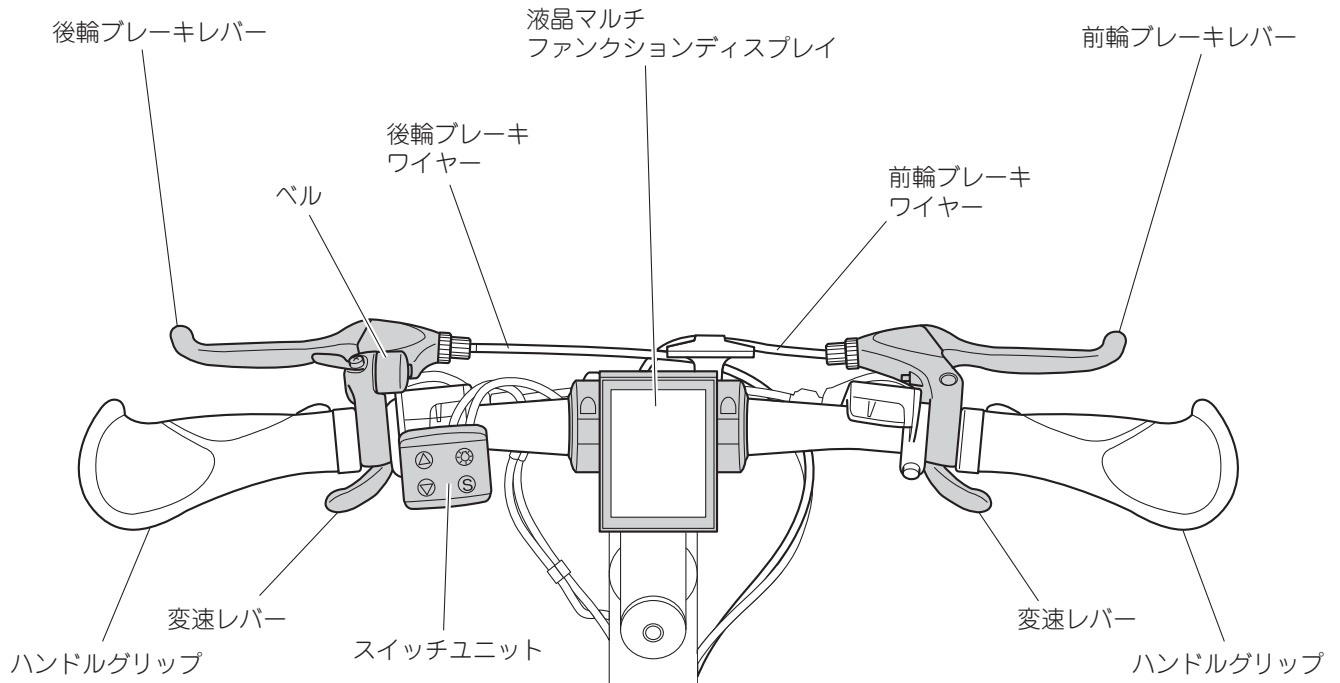
左側面



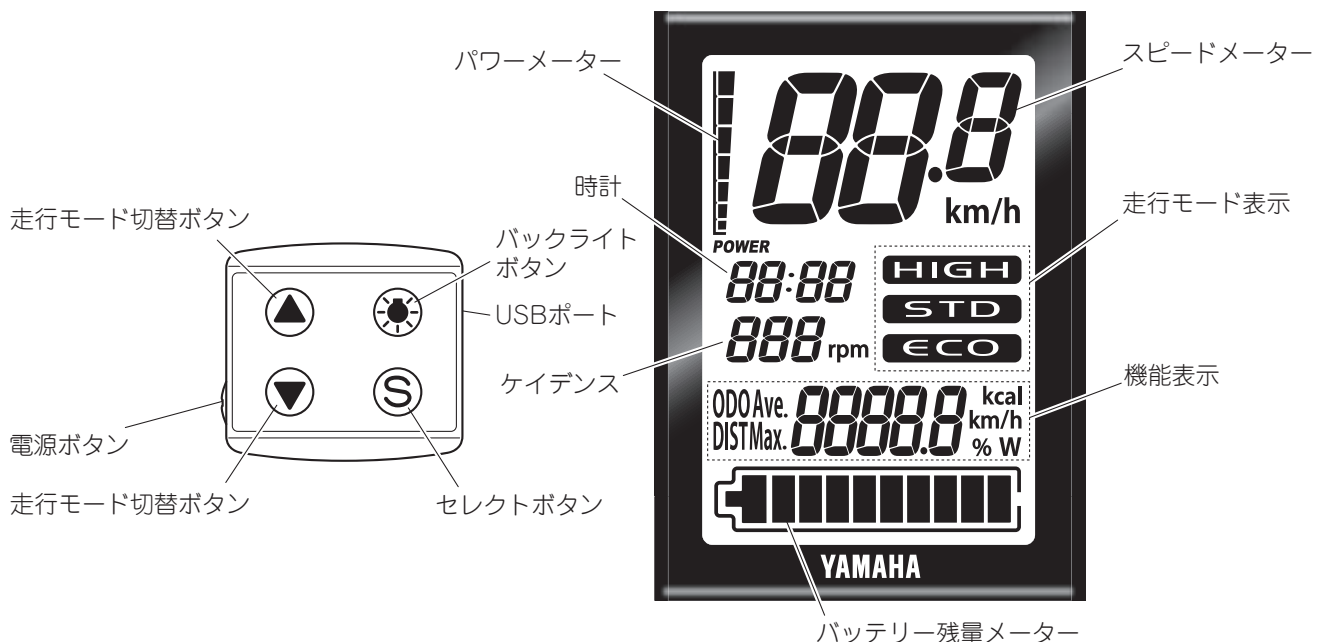
2章 各部の名称

2章

ハンドル周り



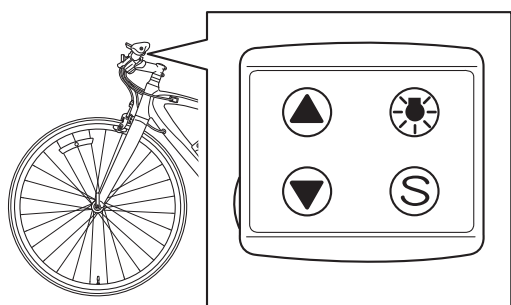
スイッチユニットと液晶マルチファンクションディスプレイ



3 章 各部の取り扱いと操作

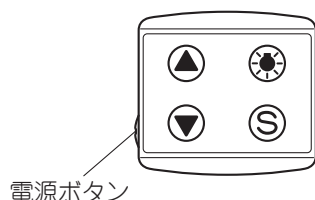
スイッチユニット

スイッチユニットは、電源ボタン、走行モード切替ボタン、セレクトボタン、バックライトボタン、USB ポートを備えています。



電源ボタン

電源ボタンを押すごとに、電源の「入」と「切」を繰り返します。



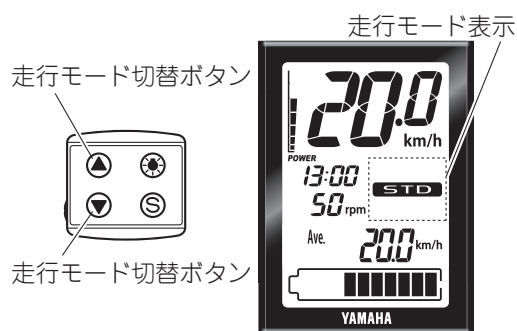
走行モード切替ボタン

走行モード切替ボタン “▲” を押すと、アシストオフモード→エコモード、エコモード→スタンダードモード、スタンダードモード→ハイモード、と走行モードが切り替わります。走行モード切替ボタン “▼” を押すと、ハイモード→スタンダードモード、スタンダードモード→エコモード、エコモード→アシストオフモード、と走行モードが切り替わります。

要 点

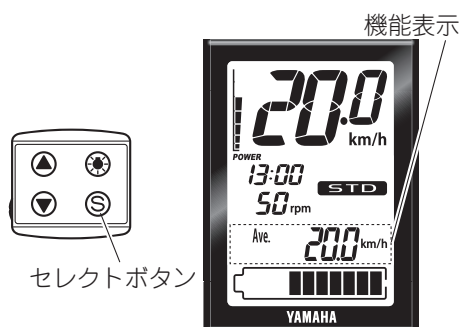
走行モード切替ボタンを押し続けても、走行モードは一巡しません。

走行モードの表示については「液晶マルチファンクションディスプレイ」(28 ページ) をご参照ください。



3 章 各部の取り扱いと操作

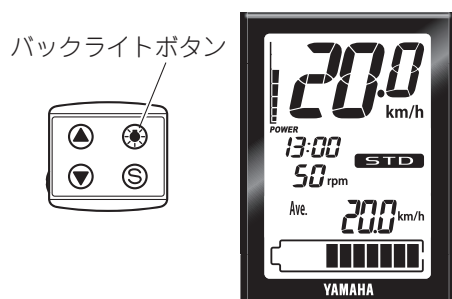
セレクトボタン



セレクトボタンを押すと、液晶マルチファンクションディスプレイの機能表示を切り替えることができます。

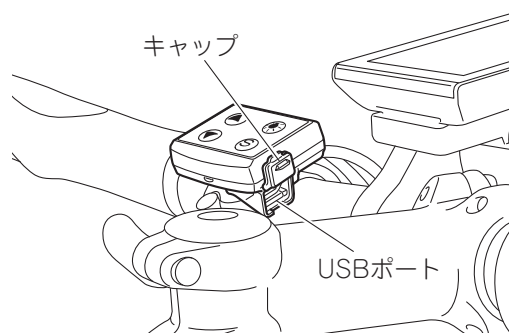
液晶マルチファンクションディスプレイの機能表示については「**液晶マルチファンクションディスプレイ**」(28 ページ)をご参照ください。

バックライトボタン



バックライトボタンを押すごとに、液晶マルチファンクションディスプレイのバックライトが点灯と消灯を繰り返します。

USB ポート



USB ケーブル (別売品) や USB 変換コネクタ (別売品) を接続することで、電子機器に電力を供給することができます。

注意

- 最大定格出力を超える電子機器を接続しないでください。
- USB ポートを使用しないときは、必ずキャップを取り付けてください。

要 点

- 電源を切っているときは使用できません。
- バッテリー残量が少なくなると使用できなくなります。
- 接続する電子機器に合った USB ケーブルや USB 変換コネクタをご使用ください。

USB コネクター形状：

マイクロ B タイプ (USB2.0 対応)

最大定格出力：

DC5V, 500mA (USB2.0 対応)

3 章 各部の取り扱いと操作

3 章

液晶マルチファンクションディスプレイ

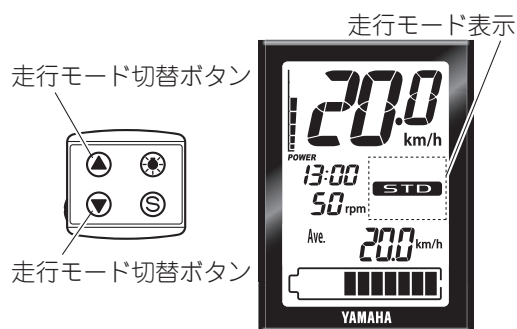
スイッチユニットの電源ボタンを押して電源が入ると、全てのセグメントが点灯し、約 1 秒後に消灯します。その後、パワーメーター、スピードメーター、時計、ケイデンス、機能表示、バッテリー残量メーター、および走行モード表示の“STD” が再度表示されます。

液晶マルチファンクションディスプレイは以下の表示や機能があります。

走行モードの表示

選択されている走行モードを表示します。

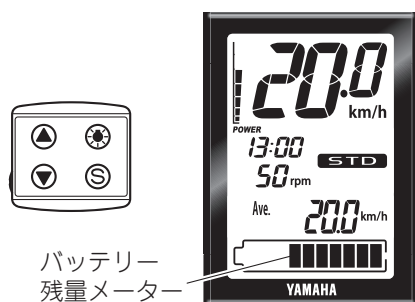
走行モードの切り替えは、スイッチユニットの走行モード切替ボタンで行ってください。



走行モード	走行モードの表示
ハイモード	HIGH
スタンダードモード	STD
エコモード	ECO
アシストオフモード	(表示なし)

バッテリー残量メーターの表示

バッテリー残量の目安を 11 段階で表示します。

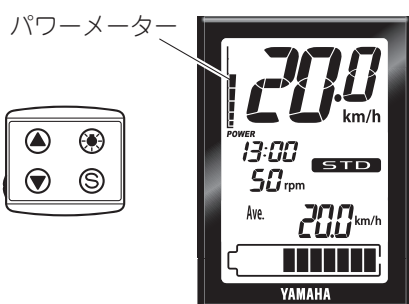


3 章 各部の取り扱いと操作

パワーメーターの表示

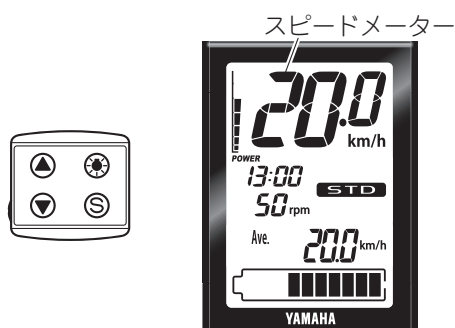
走行中のアシスト力の目安を 8 段階で表示します。

パワーアシスト（電動補助）システムが作動していないとき、パワーメーターのセグメントは一つも表示されません。パワーアシスト（電動補助）システムが作動してアシスト力が強まるほど、パワーメーターのセグメントが 1 個ずつ増えます。



スピードメーターの表示

走行速度を表示します。



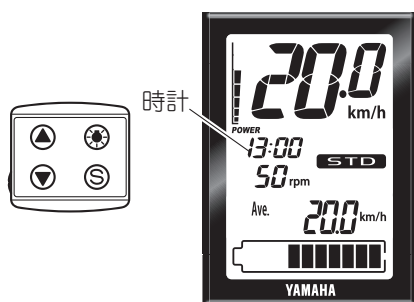
時計

24 時間制で時刻を表示します。

時刻は、電源を切っても表示します。

時刻調整については「時刻調整のしかた」（72 ページ）をご参照ください。

時計は、バッテリー残量が無くなっても、内蔵するボタン電池により表示します。ボタン電池は交換することができます。ボタン電池の交換については「液晶マルチファンクションディスプレイ内蔵ボタン電池の交換のしかた」（73 ページ）をご参照ください。

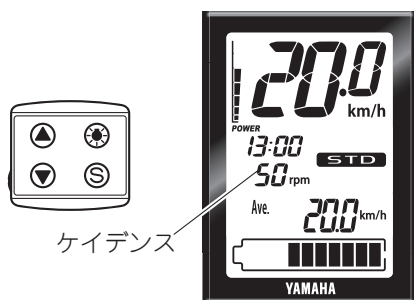


ケイデンスの表示

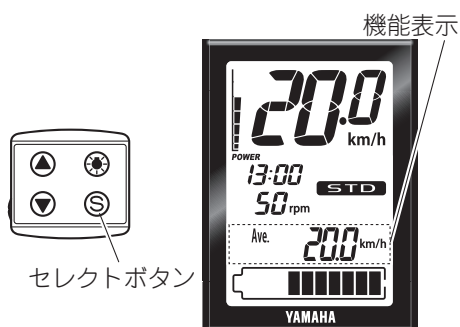
走行中の 1 分間あたりのクランク回転数を表示します。

要 点

ケイデンスの表示は最大値 200rpm を超えると最大値で固定されます。



3 章 各部の取り扱いと操作



機能表示

機能表示は、切り替え操作をすることで以下の表示をします。

- 平均車速
- 最大車速
- トリップメーター
- オドメーター
- 残リアシスト走行可能距離
- バッテリー残量
- 消費カロリー
- ペダリングパワーメーター

スイッチユニットのセレクトボタンを押すごとに、平均車速→最大車速→トリップメーター→オドメーター→残リアシスト走行可能距離→バッテリー残量→消費カロリー→ペダリングパワーメーター、というように切り替わります。ペダリングパワーメーターを表示しているときセレクトボタンを押すと、平均車速の表示に戻ります。

平均車速

電源を入れた状態で走行したときの平均走行速度（時速）を表示します。

電源を切っても、それまでのデータは残っています。

平均車速のデータをリセットするには、平均車速が表示された状態でセレクトボタンを2秒以上押します。

Ave. **77** km/h

最大車速

電源を入れた状態で走行したときの最大走行速度（時速）を表示します。

電源を切っても、それまでのデータは残っています。

最大車速のデータをリセットするには、最大車速が表示された状態でセレクトボタンを2秒以上押します。

Max. **137** km/h

トリップメーター

電源を入れた状態で走行した積算走行距離を表示します。

電源を切っても、それまでのデータは残っています。

トリップメーターをリセットして新たに積算を開始するには、トリップメーターが表示された状態でセレクトボタンを2秒以上押します。

33.1 km

3 章 各部の取り扱いと操作

要 点

トリップメーターは最大値 9999.9km を超えるとリセットされます。

オドメーター

電源を入れた状態で走行した積算走行距離を表示します。

オドメーターが表示された状態でセレクトボタンを 2 秒以上押ししても、オドメーターはリセットされません。

要 点

オドメーターは最大値 99999km を超えるとリセットされます。

残リアシスト走行可能距離

取り付けられているバッテリーの残量でアシスト走行ができる距離の目安を表示します。残リアシスト走行可能距離が表示された状態でアシストモードを切り替えると、アシスト走行ができる距離の目安は変化します。

残リアシスト走行可能距離が表示された状態でセレクトボタンを 2 秒以上押ししても、残リアシスト走行可能距離のデータはリセットされません。

要 点

- 残リアシスト走行可能距離は、走行状況（坂道、向かい風など）やバッテリーの劣化状態により変化します。
- アシストオフモードの場合は、[----] が表示されます。

バッテリー残量

取り付けられているバッテリーの残量を表示します。

バッテリー残量が表示された状態でセレクトボタンを 2 秒以上押ししても、バッテリー残量のデータはリセットされません。

消費カロリー

電源を入れた状態で走行したときの消費カロリーの目安を表示します。

電源を切っても、それまでのデータは残っています。

消費カロリーのデータをリセットするには、消費カロリーが表示された状態でセレクトボタンを 2 秒以上押します。

ODO

157 km

DIST

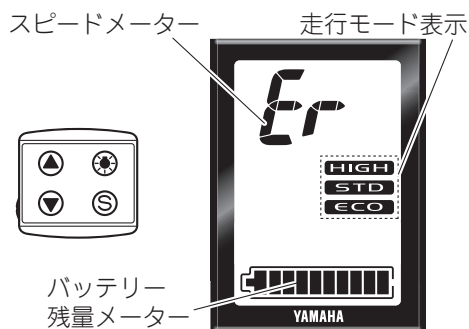
15 km

33 %

157 kcal

3 章 各部の取り扱いと操作

12 W



要 点

消費カロリーのデータは最大値 59999kcal を超えるとリセットされます。

ペダリングパワーメーター

電源を入れた状態で走行したときのペダリングパワー（ペダルを踏む力）の目安を表示します。

ペダリングパワーメーターが表示された状態でセレクトボタンを 2 秒以上押しても、ペダリングパワーメーターはリセットされません。

自己診断機能による異常表示

この YPJ には、パワーアシストシステムの自己診断機能を装備しています。

パワーアシストシステムに故障や異常があれば異常表示または異常点滅をして異常をお知らせします。

異常表示・異常点滅の種類や対処方法については「**液晶マルチファンクションディスプレイが異常表示・異常点滅する**」（77 ページ）をご参照ください。

⚠ 警 告

異常表示がおきたときには、すみやかに対処方法をご実施ください。対処方法を実施してもなお同じ症状がでる場合は、ご使用を止め、販売店で点検・整備をお受けください。

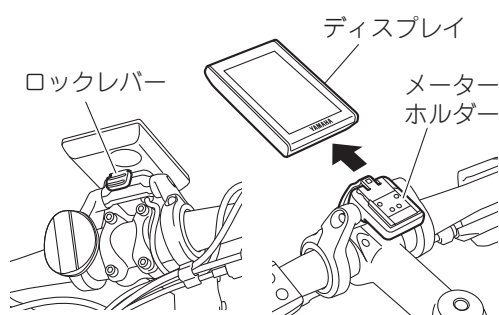
液晶マルチファンクションディスプレイの取り外し・取り付け・角度調整

液晶マルチファンクションディスプレイは、車体から取り外すことができます。また、乗車姿勢に合わせて取り付け角度を調整できます。

3 章 各部の取り扱いと操作

取り外しかた

ロックレバーを押しながら、液晶マルチファンクションディスプレイを前方へスライドさせます。

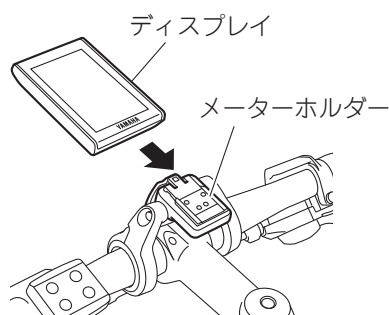


取り付けかた

液晶マルチファンクションディスプレイをメーターホルダーに合わせて、カチッと音がするまで後方にスライドさせます。取り付け後は、確実に取り付けられていることを確認してください。

注意

- 確実に取り付けしていないと、液晶マルチファンクションディスプレイが落下するおそれがあります。
- 取り付けるときに、指などをはさまないようにしてください。



角度調整のしかた

角度調整ボルトをゆるめてから、角度を調整してください。調整後、角度調整ボルトを締め付けます。

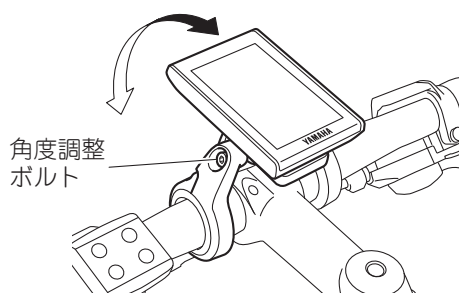
注意

ご自身での角度調整作業に自信がない方は、販売店にご依頼ください。

要 点

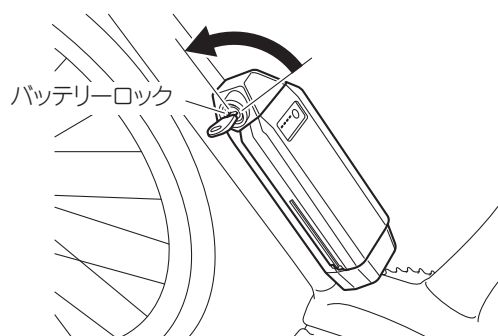
角度調整作業には工具が必要です。

角度調整ボルト締め付けトルク：
0.5N・m (0.05kgf・m)



3 章 各部の取り扱いと操作

3 章



バッテリーロック

この YPJ は、ダウンチューブ部にバッテリーロックを装備しています。バッテリーロックは、バッテリーを車体に固定するために使用します。

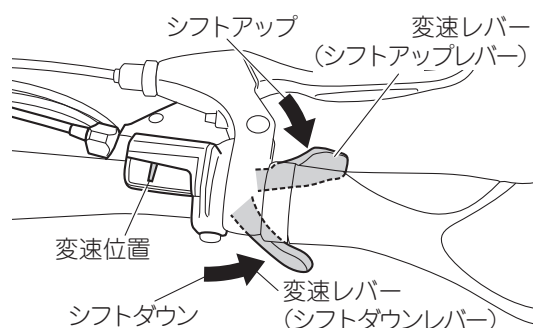
バッテリーロックを開錠するときは、キーをキーホールに差し込み反時計方向に回します。

ロックを開錠した位置では、キーを抜くことができません。キーを取り外すためには、キーを元の位置まで時計方向に回します。

バッテリーの脱着については「充電のしかた」(45 ページ)をご参照ください。

変速レバー

この YPJ は、ハンドルの左右に変速レバーを装備しています。変速レバーを操作するときは、ペダルを踏む力を抜いて空転気味に軽く回しながら、1 速ずつ操作してください。

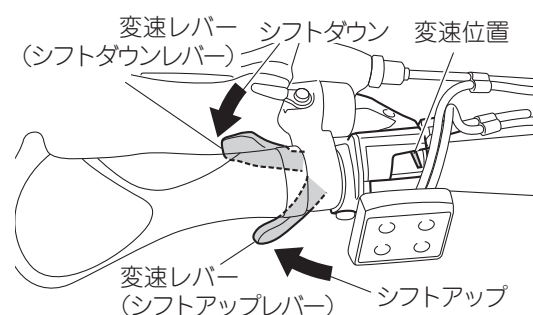


右側のレバーを操作すると、後ギアの変速操作を行えます。シフトアップレバーを引くごとに、シフトアップ（大ギアから小ギアへ変速）します。

(1 速→2 速→……→8 速→9 速)

シフトダウンレバーを押すごとに、シフトダウン（小ギアから大ギアへ変速）します。

(9 速→8 速→……→2 速→1 速)



左側の各レバーを操作すると、前ギアの変速操作を行えます。シフトアップレバーを押すと、シフトアップ（小ギアから大ギアへ変速）します。

(1 速→2 速)

シフトダウンレバーを引くと、シフトダウン（大ギアから小ギアへ変速）します。

(2 速→1 速)

3 章 各部の取り扱いと操作

⚠ 警告

- 変速の操作は、周囲の安全を充分にご確認の上行ってください。
- 発進するときは、ギア比が大きく変化する変速の操作（前ギアの小ギアから大ギアなど）はしないでください。バランスを崩して転倒やけがのおそれがあります。
- 一度に 2 速以上変速しないでください。また、前後同時に変速しないでください。チェーンが外れたりペダルの回転数が急激に変化するため、ペダルを踏み外してけがをするおそれがあります。
- シフトアップとシフトダウンを急激に繰り返す変速の操作をしないでください。チェーンがギアに斜めにくい込んだり、チェーンが外れるため、ペダルを踏み外してけがをするおそれがあります。

注意

- ペダルを強く踏み込みながら変速の操作をしないでください。無理に変速を行うと、異音が生じたり変速機が故障するおそれがあります。
- 停車時やペダルを逆回転させた状態で変速の操作をしないでください。変速機が故障するおそれがあります。

要 点

- 変速操作に慣れるまで充分練習してください。
- 上り坂を走行する際は、坂の手前で変速してください。

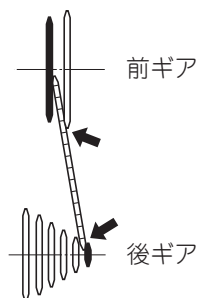
変速位置の注意

注意

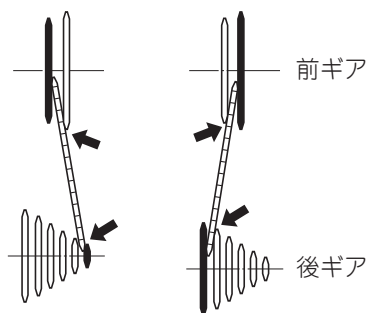
前後共に大ギア、または前後共に小ギアに変速しないでください。異音が生じるおそれがあります。また、チェーンやギアが摩耗したり変速機が故障するおそれがあります。

左図のように前後共に小ギアに変速すると、チェーンが前ギアの大ギアや変速機と接触して異音が発生する場合があります。

後ギアを 1 ～ 2 速大ギアに変速すると解消します。



3 章 各部の取り扱いと操作



左図のように前後共に大ギア、または前後共に小ギアに変速すると、チェーンは最もねじれた状態になります。また変速機やギアに大きな負担がかかっています。

後ギアを1～2速大ギアまたは小ギアに変速すると解消します。

ハンドルブラケット

この YPJ は、ハンドルブラケットの取り付け位置を変えて、ハンドルの取り付け高さを調整することができます。

警告

- ご自身での調整作業に自信がない方は、販売店にご依頼ください。
- 安全な場所で、車両を停車させて行ってください。
- 乗車前に組み付け状態を点検してください。がたつきや異常があるときは転倒や衝突するおそれがあります。使用を中止し、販売店で点検をお受けください。

注意

- ハンドルの取り付け高さおよび取り付け角度を調整した場合は、ハンドルを目一杯回したときにブレーキレバーがフレームと接触しないか確認してください。接触すると、フレームが傷ついたりブレーキレバーが破損するおそれがあります。接触する場合は、ブレーキレバー取り付け角度の調整を販売店にご依頼ください。
- ハンドルブラケットをゆるめた状態で四輪等で運搬すると、フォークが180°反転する場合があります。乗車前にフォークの向きが正しいかご確認ください。

要点

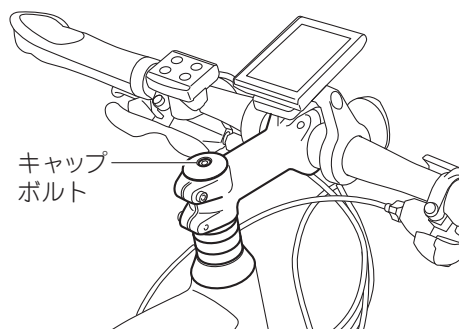
ハンドルの取り付け高さの調整には工具が必要です。

ハンドルの取り付け高さ調整

ハンドルの取り付け高さは好みの高さに調整できます。

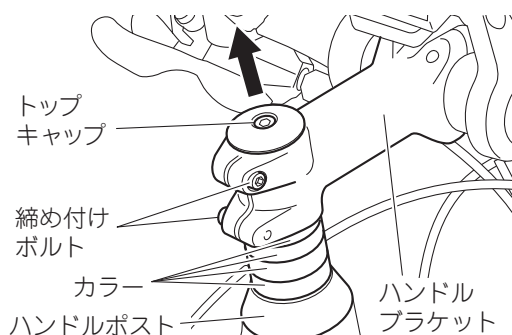
3 章 各部の取り扱いと操作

3 章



キャップ
ボルト

- 1 六角レンチ（5mm）を使用してキャップボルトを取り外します



トップ
キャップ

締め付け
ボルト

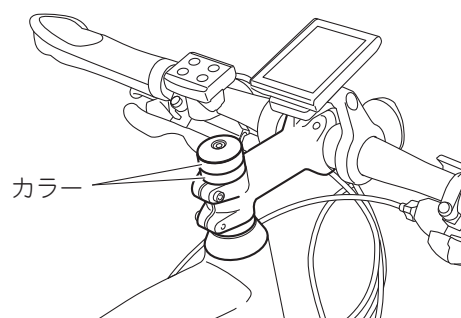
カラー

ハンドル
ブラケット

- 2 ハンドルブラケットの締め付けボルト 2 本をゆるめます
ハンドルを付けたまま、トップキャップ、ハンドルブラケットとカラー 1 個または 2 個をハンドルポストから取り外します。

要 点

カラーは厚さが異なります。



カラー

- 3 ハンドルブラケット、カラーとトップキャップをハンドルポストに組み付けます

- 4 キャップボルトを締め付けて、キャップを組み付けます

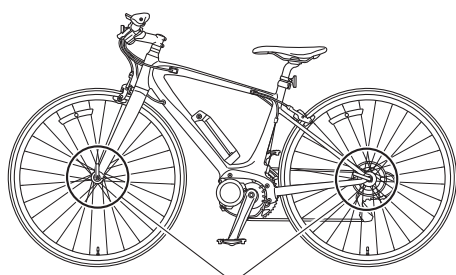
キャップボルト締め付けトルク：
2.5N・m (0.25kgf・m)

- 5 ハンドルと前輪の角度が直角になるように位置を決めて、ハンドルブラケットの締め付けボルトを締め付けます

ハンドルブラケット締め付けトルク：
5 ～ 6N・m (0.5 ～ 0.6kgf・m)

3 章 各部の取り扱いと操作

3 章



クイックリリースハブ

クイックリリースハブ

この YPJ は前後輪にクイックリリースハブを装備しています。クイックリリースハブは、工具を使用せずに車輪の取り外しおよび取り付けができます。

⚠ 警告

- ご自身での取り付けおよび取り外し作業に自信がない方は、販売店にご依頼ください。
- 取り扱いに不明の点があれば、販売店にご相談ください。
- 車輪を正しく取り付けてください。正しく取り付けしていない場合、走行中に車輪が外れ、転倒によるけがのおそれがあります。
- 安全な場所で、車両を停車させて行ってください。
- 乗車前に組み付け状態を点検してください。がたつきや異常があるときは使用を中止し、販売店で点検をお受けください。
- 公共の場所（駐輪場など）に駐輪した後は、いたずらをされていないか確認してください。
- クイックリリースレバーは左側にセットしてください。
- クイックリリースレバーが車体に干渉しないようにしてください。

注意

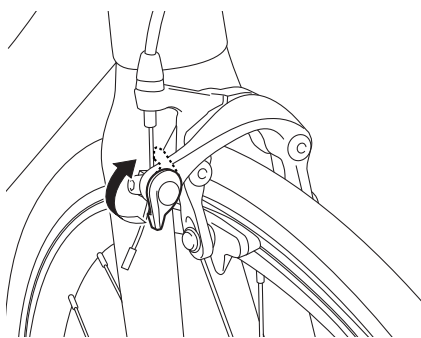
クイックリリースレバーの操作は、必ず手で行ってください。ハンマーなどを使用すると、クイックリリースレバーが破損するおそれがあります。

車輪の取り外しかた

前輪の取り外しかたを例に説明します。後輪を取り外するときも、同様の手順で行ってください。

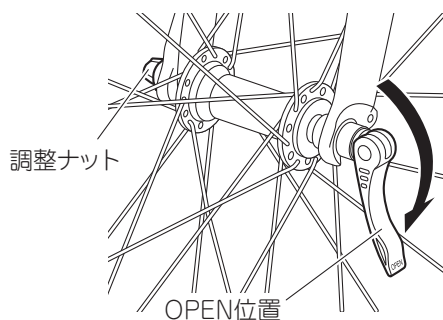
3 章 各部の取り扱いと操作

3 章

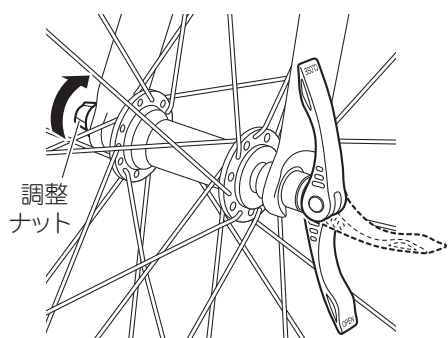


1 ブレーキアーチを開きます

ブレーキキャリパーのクイックリリースレバーを解除します。



2 クイックリリースレバーを CLOSE 位置から OPEN 位置に操作します



3 調整ナットをゆるめます

要 点

調整ナットをゆるめすぎると、内側のスプリングと共に脱落します。

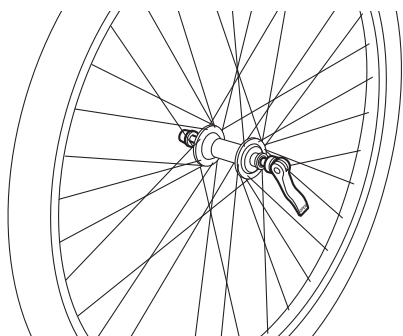
4 車輪を取り外します

車体が倒れないように注意してください。

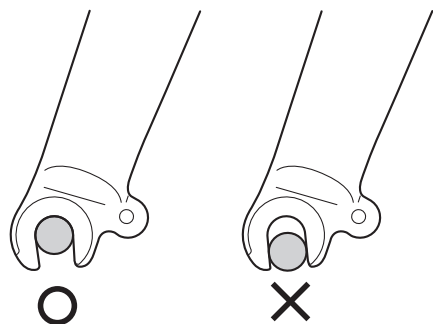
車輪の組み付けかた

前輪の組み付けかたを例に説明します。後輪を組み付けるときも、同様の手順で行ってください。

1 クイックリリースレバーを OPEN 位置にします



3 章 各部の取り扱いと操作



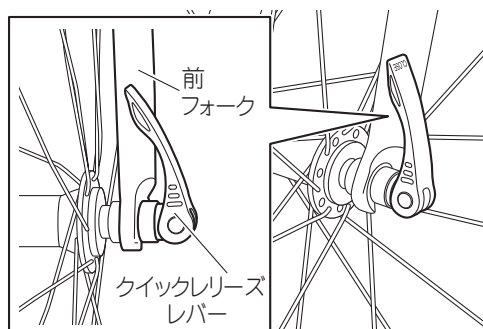
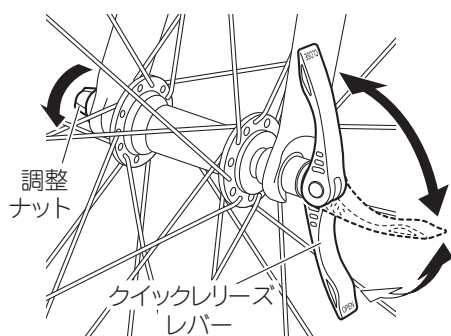
2 車輪のハブ軸がフォークエンドの奥に当たるまで確実に組み付けます

⚠ 警告

ハブ軸がフォークエンドの奥まで入っていないと、車輪が外れるおそれがあります。

要 点

調整ナットをゆるめすぎると、内側のスプリングと共に脱落します。



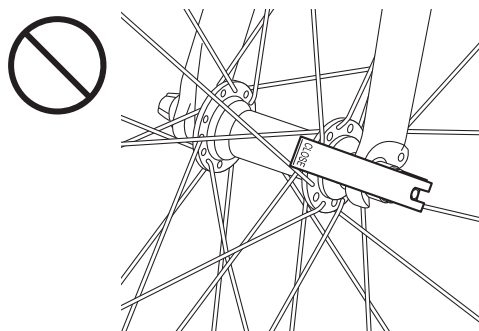
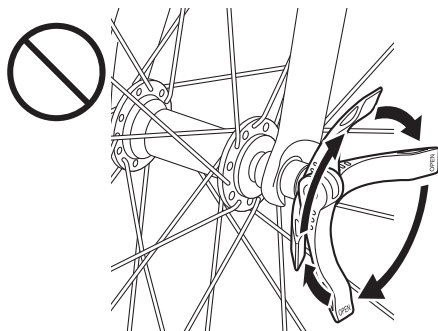
3 クイックリリースレバーを交互に OPEN 位置と CLOSE 位置に操作しながら、調整ナットを時計回りに回し徐々に締め込みます

クイックリリースレバーを CLOSE 側に操作するとき、ハブ軸と平行の位置を過ぎるあたりから抵抗を感じるようになるまで調整ナットを締め続けます。

4 クイックリリースレバーを CLOSE 位置に操作します
クイックリリースレバーを左図のようにセットしてください。

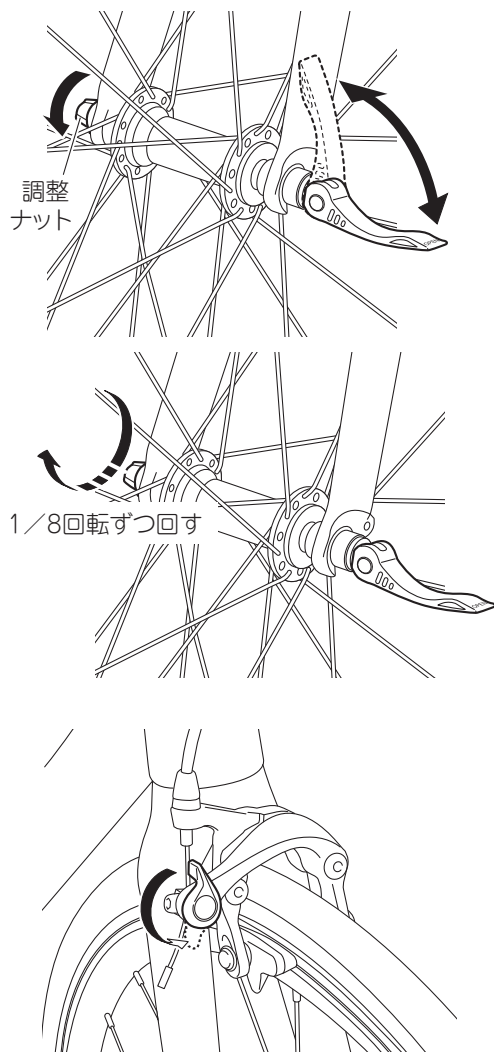
⚠ 警告

- クイックリリースレバーを回して固定しようとししないでください。車輪が正しく取り付けられず走行中に車輪が外れ、転倒によるけがのおそれがあります。
- クイックリリースレバーを前フォークと離れた位置にセットしないでください。



3 章 各部の取り扱いと操作

3 章



要 点

- クイックリリースレバーを簡単に CLOSE 位置に操作できる場合は、固定力が不足しています。クイックリリースレバーをハブ軸と平行の位置にして、調整ナットをさらに時計方向に回して固定力を上げてください。その後、再度クイックリリースレバーをCLOSE位置へ操作してください。
- 固定力が強すぎてクイックリリースレバーを CLOSE 位置に操作することができない場合は、調整ナットを反時計方向に回して固定力を弱めます。このとき、一度に弱めるのではなく、調整ナットを反時計方向に約 1 / 8 回転回すごとにクイックリリースレバーを CLOSE 方向に操作して、クイックリリースレバーを倒すことができる最大の固定力にセットしてください。

5 ブレーキアーチを閉じます

ブレーキキャリパーのクイックリリースレバーを元の位置に戻します。

6 ブレーキが正常に作動するか確認します

⚠ 警告

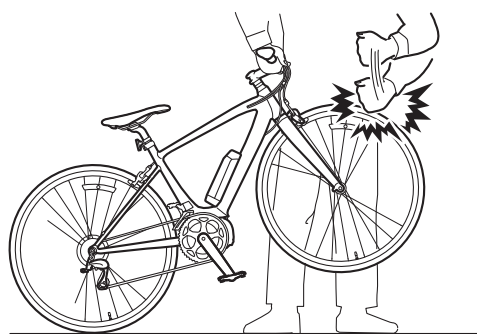
ブレーキの作動に異常がある場合は、販売店にご相談ください。

クイックチェックのしかた

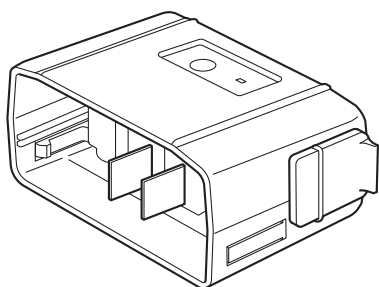
車輪が地面から離れるように自転車を持ち上げ、車輪の上部を数回下に強くたたいてください。車輪が外れたり、クイックリリースハブがゆるんだりしてはいけません。

要 点

このチェック方法は、クイックリリースレバーが十分に締め付けられているか確認するものではありません。クイックリリースレバーが正しく締まっていない、または締め付けが確実にない場合は、車輪を正しく組み付けなおしてから乗車してください。



3 章 各部の取り扱いと操作



USB アダプター

別売品のUSBアダプターをYPJのバッテリーに装着し、USBケーブル（別売品）や USB 変換コネクタ（別売品）を接続することで、スマートフォンなどの電子機器を充電することができます。

警告

水でぬらしたり、ぬれた手で触らないでください。発熱、発火、破損、故障の原因となります。

注意

- この USB アダプターを YPJ 以外のバッテリーに装着しないでください。
- USB ポートを使用しないときは、必ずキャップを取り付けてください。

要点

- 接続する電子機器により、充電できないものがあります。
- 接続する電子機器により、満充電にならない場合があります。
- 接続する電子機器により、充電が完了しても充電ランプが消灯しない場合があります。電子機器の充電表示をご確認ください。
- USB アダプターの定格出力を超える電力を必要とする電子機器を接続すると、USB アダプターの保護機能が作動して充電できなくなります。
- この USB アダプターの使用に限らず、お使いの電子機器の保存データが消失するおそれがあります。接続する前に、必ず保存データのバックアップをお取りください。

USB コネクタ形状：

A タイプ

最大定格出力：

DC5V, 1.5A（1 ポートあたり）

USB 規格：

USB Battery Charging 1.2

3 章 各部の取り扱いと操作

3 章

充電のしかた

- 1 USB アダプターをバッテリーに装着し、USB ケーブルや USB 変換コネクタを USB アダプターに接続します

注 意

- バッテリーが USB アダプターの奥に突き当たるまで、確実に装着してください。
- USB ケーブルや USB 変換コネクタは、確実に接続してください。
- USB ケーブルや USB 変換コネクタの接続部がゆるい場合は、ご使用を止めてください。

要 点

接続する電子機器に専用の USB ケーブルが設定されている場合は、専用品をご使用ください。

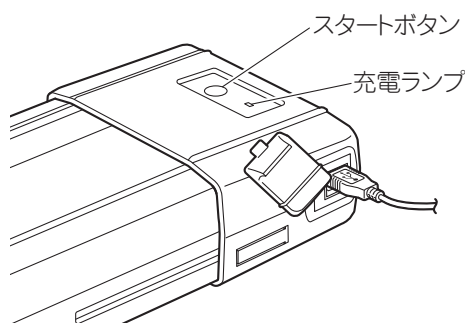
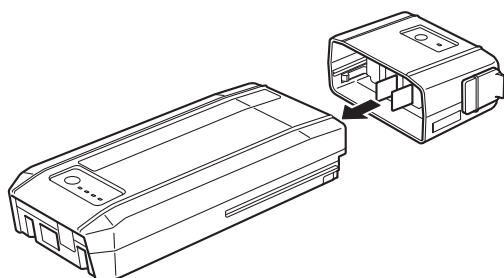
- 2 電子機器を接続し、USB アダプターのスタートボタンを押します

充電ランプが点灯し、充電が始まります。

充電が完了すると、充電ランプが消灯します。

要 点

- 充電中にスタートボタンを押しても、充電は停止しません。充電を途中で停止する場合は、電子機器から USB ケーブルを外してください。
- バッテリー残量が少なくなると、電子機器への充電ができません。



4 章 バッテリーの充電

YPJ のバッテリー

YPJ はリチウムイオンバッテリーを装備しています。

リチウムイオンバッテリーは軽量で電池容量に優れたバッテリーですが、以下の特性があります。

- 過度に暑い環境／寒い環境で性能が低下する。
- 使用していなくてもわずかながら放電する。
- バッテリー残量にかかわらず充電できる。
- 満充電のバッテリーを繰り返し充電すると劣化が早くなる。

特性については「**バッテリーの特性**」(79 ページ) をご参照ください。

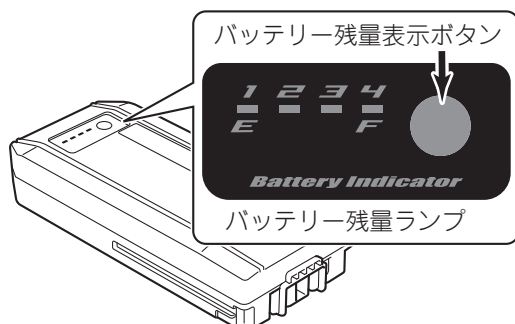
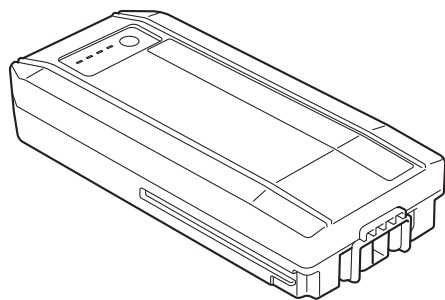
また、YPJ のバッテリーは、コンピューターを内蔵しており、バッテリー残量の目安や異常の発生をバッテリー残量ランプでお知らせします。

バッテリー残量は、バッテリー残量表示ボタンを押すことで約 5 秒間点灯してお知らせします。

バッテリー残量の目安については「**バッテリー残量ランプの表示とバッテリー残量の目安**」(59 ページ) をご参照ください。異常点滅については「**バッテリー残量ランプが異常点滅する**」(78 ページ) をご参照ください。

要 点

駐輪時、バッテリーを取り外した状態で接続端子が雨水にぬれてもご使用いただけます。



充電に適した環境

過度に暑い場所や寒い場所では正しく充電できないことがあります。以下の充電に適した環境で行ってください。

- 温度が 15 ～ 25 °C の室内
- 雨や水にぬれないところ
- 直射日光に当たらないところ
- 風通しがよく湿気がないところ
- 平坦で安定するところ
- 幼児やペットが触れられないところ

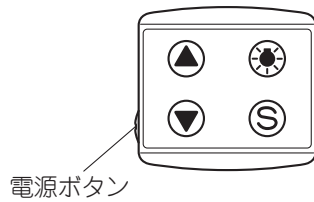
要 点

テレビやラジオにノイズが発生する場合は、場所を移動して充電を行ってください。

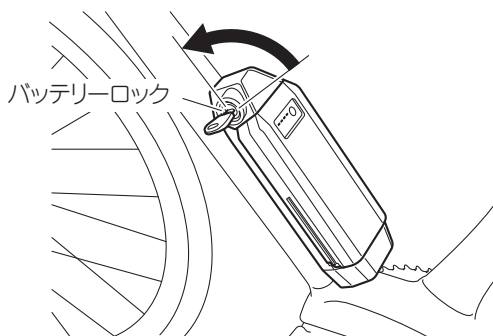
4 章 バッテリーの充電

充電のしかた

1 スイッチユニットの電源ボタンを押し電源を切ります



2 キーをバッテリーロックに差し込み、反時計方向に回してバッテリーロックを開錠します



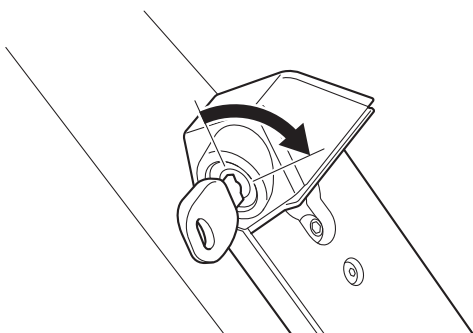
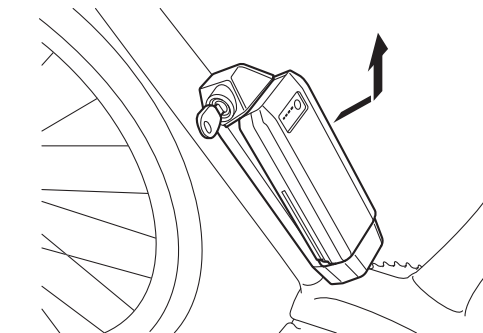
3 バッテリーを取り外します

バッテリー上部を持ち上げ、上側に引き上げます。

バッテリーを取り外したら、キーは元の位置まで回して取り外します。

要 点

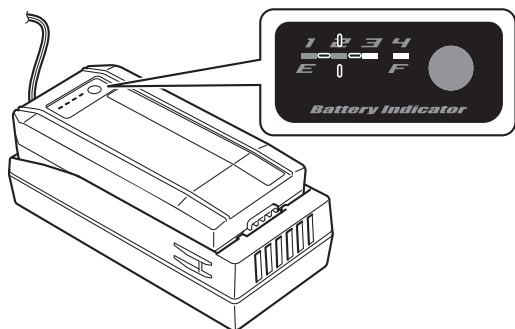
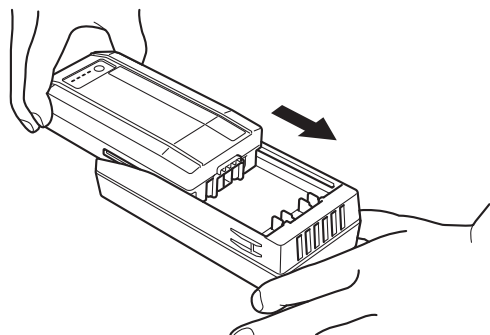
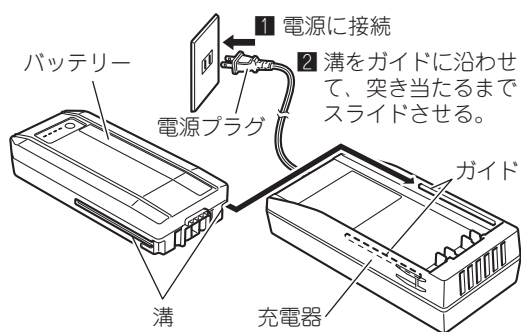
駐輪時、バッテリーを取り外した状態で接続端子が雨水にぬれてもご使用いただけます。



4 章 バッテリーの充電

4 バッテリーを充電器に取り付けます

充電器を押さえながら、バッテリー側面の溝を充電器のガイドに沿わせて、突き当たるまでスライドさせます。確実に接続されると自動的に充電を始めます。



5 充電状態をバッテリーのバッテリー残量ランプで確認します

充電状態は「充電の確認」(48 ページ)をご参照ください。

⚠ 警告

充電中に異音や異臭がしたり煙がでるなど異常に気づいたら、すぐに充電器の電源プラグを抜き、バッテリーを取り外してください。

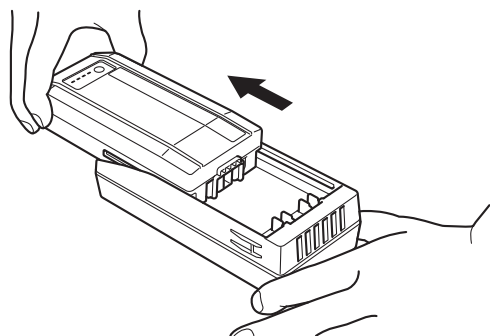
注意

バッテリーを充電器に取り付けた状態では、バッテリーや充電器を持ち上げないでください。充電器やバッテリーが落下し故障の原因となります。

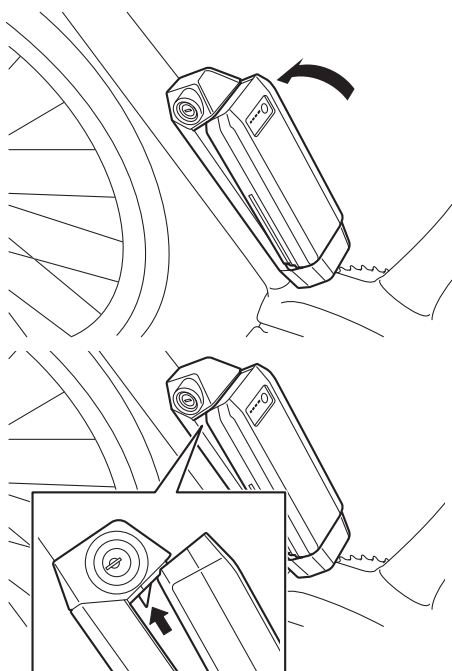
6 充電の完了を確かめ、バッテリーを充電器から取り外します

充電が完了すると、バッテリーのバッテリー残量ランプが消灯します。

充電器を押さえながら、バッテリーをスライドさせて取り外します。



4 章 バッテリーの充電



7 YPJ にバッテリーを取り付けます

バッテリーの接続部にごみなどが付着していないことを確認した後、バッテリーの接続部を車体側の接続端子に合わせて、いっぱいまで差し込みます。

バッテリーの上部をカチッと音がするまで車体側に押しつけて固定します。装着後、バッテリーを持ち上げて、確実に装着されていることを確認してください。

⚠ 警告

- カチッと音がするまでバッテリーが確実に装着されていないと、バッテリーが落下するおそれがあります。
- バッテリーを取り付けるときに、指などをはさまないようにしてください。

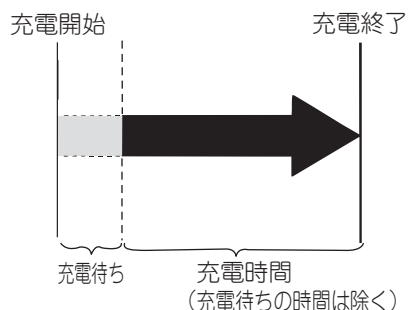
充電時間

バッテリーを残量ランプの 1 灯点減まで使用したとき、満充電までの充電時間はおおよそ以下のとおりです。

充電時間：
約 1 時間

要 点

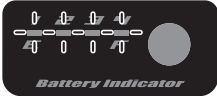
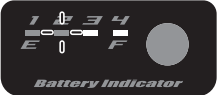
- 充電時間は、バッテリー内部の温度によって異なります。
- 長期放置したバッテリーを充電した場合、電池の状態により充電時間が延びることがあります。
- 充電時間の目安には、充電待ち時間（バッテリー内部温度が充電できる温度に下がるまでの時間）は含まれていません。充電待ちについては「**充電の確認**」（48 ページ）をご参照ください。



4 章 バッテリーの充電

充電の確認

充電の状態は、バッテリーのバッテリー残量ランプで行います。

バッテリー残量ランプの表示	状態
 4 灯同時点滅	バッテリーの内部が高温のとき、またはバッテリーが過度に冷えているときは、バッテリーのバッテリー残量ランプ全てが点滅して、充電待ちの状態をお知らせします。バッテリー内部温度が充電に適した温度になると充電が開始されます。
 ↓	正常に充電しているときは、バッテリーのバッテリー残量ランプは現在の残量分の一番右側のランプが点滅します。 充電が進むと、バッテリーのバッテリー残量ランプが 1 灯ずつ増えていきます。それに伴い点滅するランプも右側に移動します。
 消灯	充電が完了すると、バッテリーのバッテリー残量ランプは消灯します。

- 要 点
- 充電待ちになったバッテリーが充電できる温度に下がるまで、室内の温度が高いほど時間を要します。室内の温度が 30 ℃ の場合、約 1 時間必要になる場合があります。
 - 正常に充電を開始しても、充電途中でバッテリー内部が規定の温度を超えたとき、バッテリー保護のために自動的に充電を中断します。この場合、十分に充電されないことがありますので、しばらくバッテリーを冷ました後、充電に適した環境で再度充電してください。

4 章 バッテリーの充電

MEMO

5 章 お乗りになる前に

乗車前点検

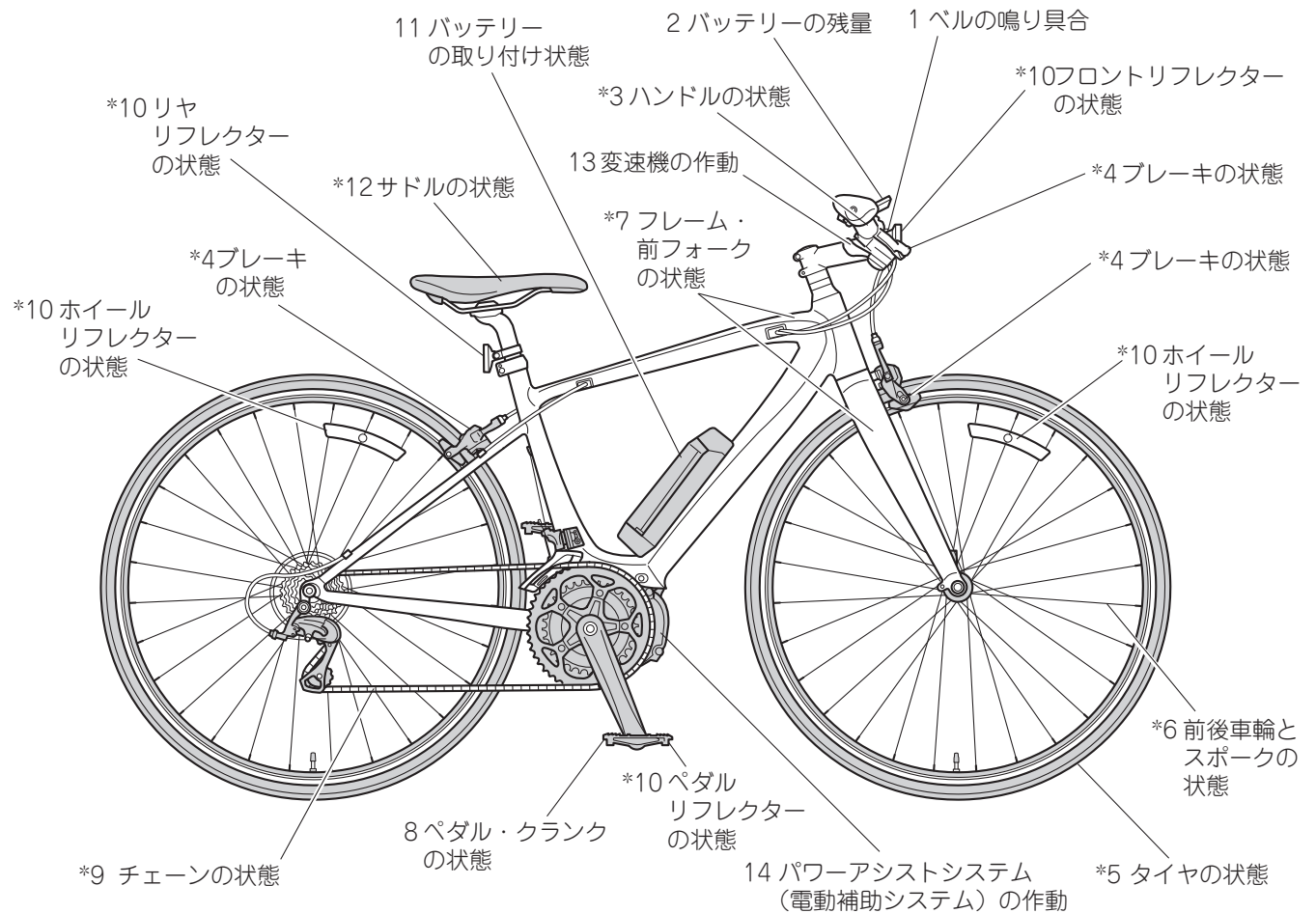
警告

乗車前点検を、必ず実施してください。
異常が認められた場合は、すぐに販売店で点検・整備をお受けください。異常のまま使用すると、転倒や衝突によるけがのおそれがあります。
また、わからないことや難しいと感じたときは販売店にご相談ください。

注意

パワーアシスト（電動補助）機構は精密部品で構成されていますので分解しないでください。

乗車前点検は、スイッチユニットの電源を切った状態で行ってください。



注）“*” の項目については、点検の詳細を記述しています。

番号	点検項目	点検内容
1	ベルの鳴り具合	・ ベルが鳴るか
2	バッテリーの残量	・ バッテリーの残量が充分にあるか

5 章 お乗りになる前に

5 章

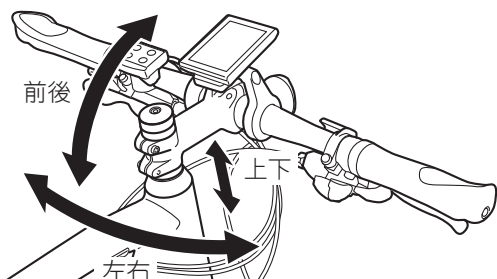
番号	点検項目	点検内容
*3	ハンドルの状態	・ がたつきがないか ・ 直角に固定されているか ・ グリップが回ったり抜けたりしないか
*4	ブレーキの状態	・ レバーとハンドルグリップとの間、約 1/2 でブレーキが効くか ・ ブレーキレバーがずれたり動いたりしないか ・ ブレーキワイヤーにさび、切れ、ほつれ、折れがないか ・ ブレーキシューがリムに当たったままになっていないか ・ ブレーキシューがリムからずれていないか ・ ブレーキシュー溝に異物がはさまっていないか ・ ブレーキの取り付け部にゆるみやがたつきがないか
*5	タイヤの状態	・ 空気圧は適正か ・ 摩耗していないか ・ 異物やくぎなどが刺さっていないか
*6	前後車輪とスポークの状態	・ ゆるみやがたつき、ふれがないか ・ スポークの折れ、ゆがみ、変形はないか
*7	フレーム・前フォークの状態	・ 変形、亀裂、膨れなどの異常がないか
8	ペダル・クランクの状態	・ ゆるみやがたつきがないか ・ スムーズに回転するか ・ 変形、ひび割れはないか
*9	チェーンの状態	・ 滑らかに動くか ・ 異物や小石などがはさまっていないか
*10	フロントリフレクター・ホイールリフレクター・ペダルリフレクター・リヤリフレクターの状態	・ 汚れ、破損がないか
11	バッテリーの取り付け状態	・ 確実に固定されているか
*12	サドルの状態	・ 引き上げ限界線が見えていないか ・ シートバンドにゆるみがないか ・ ずれたり回転しないか ・ サドル上面がほぼ水平に固定されているか ・ シートポストに傷つき、ささくれ、へこみ、亀裂などの異常がないか ・ サドルの取り付けにゆるみ、がたつきがないか
13	変速機の作動	・ スムーズに変速するか
14	パワーアシストシステム（電動補助システム）の作動	・ 発進時にパワーアシストシステムが作動するか

5 章 お乗りになる前に

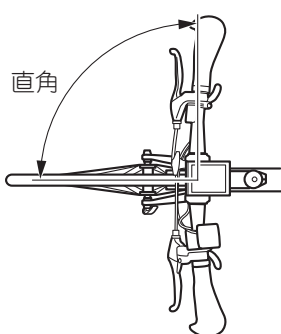
点検の詳細

*3 ハンドルの点検

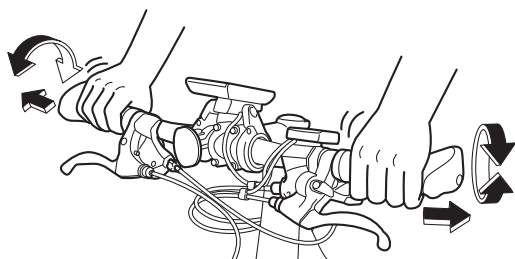
- ハンドルを前後／左右／上下の方向に動かし、ガタがないかを点検します。



- ハンドルが前輪に対して直角に固定されているかを点検します。

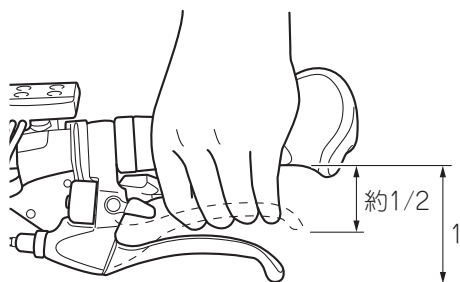


- ハンドルグリップに力を入れて回しても、回ったり、抜けたりしないかを点検します。



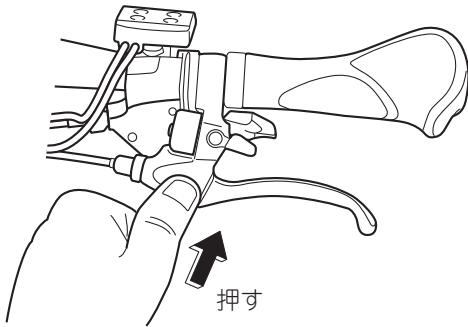
*4 ブレーキの点検

- ブレーキレバーを握ったときに、レバーとハンドルの隙間が約 1/2 の距離にあるかを点検します。

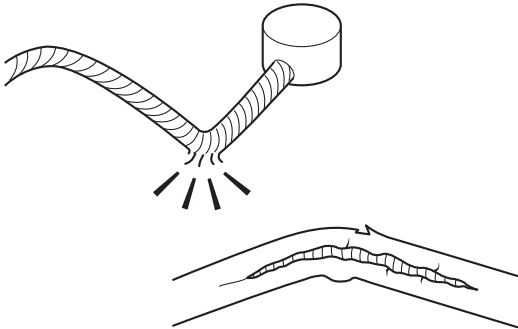


5 章 お乗りになる前に

- 前後ブレーキレバーの取り付け部を指で押し、ずれたり動いたりしないかを点検します。



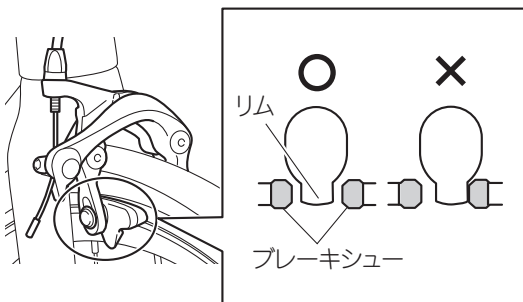
- ブレーキワイヤーにさびや切れ、ほつれ、折れなどがないかを点検します。



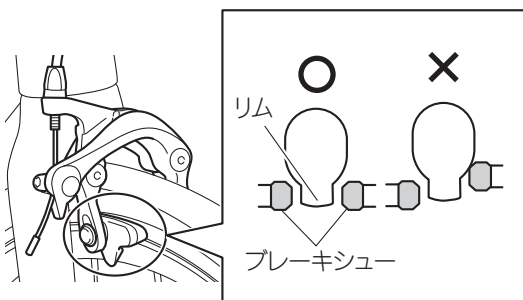
- 前後ブレーキがよく効くか点検します。効きが弱い場合は販売店で点検・調整をお受けください。



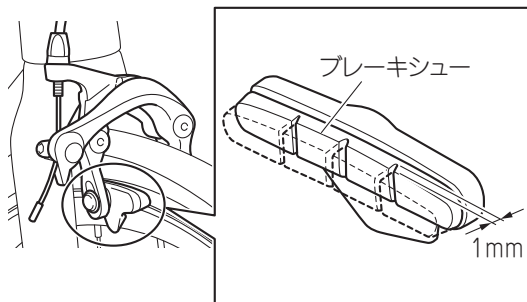
- ブレーキシューがリムに当たったままになっていないかを点検します。



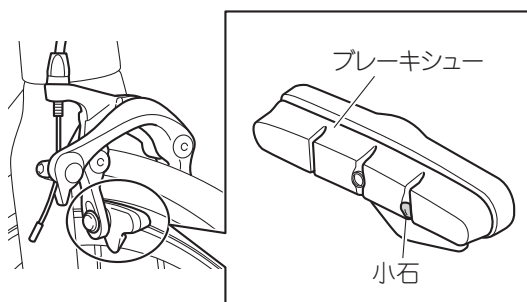
- ブレーキシューがリムからずれていないかを点検します。



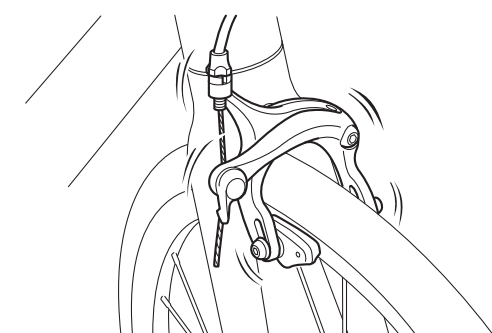
5 章 お乗りになる前に



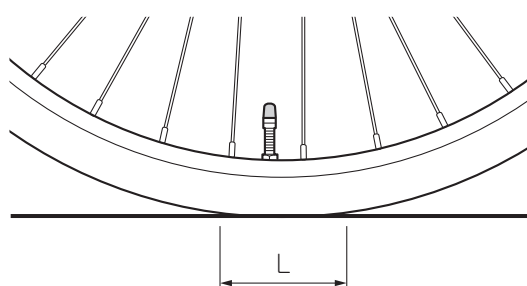
- ブレーキシューの溝が 1mm 以上残っているかを点検します。



- ブレーキシューの溝に小石などがはさまっていないかを点検します。



- ブレーキの取り付け部にゆるみ、がたつきがないか点検します。



*5 タイヤの点検

- タイヤの空気圧を点検し、不適正な場合は空気圧を調整してください。

空気圧は、YPJ に乗車（体重 60kg の方）した状態での接地面の長さで簡易に判定することができます。

最大空気圧

前輪：830kPa (8.3kgf/cm², 8.3bar)

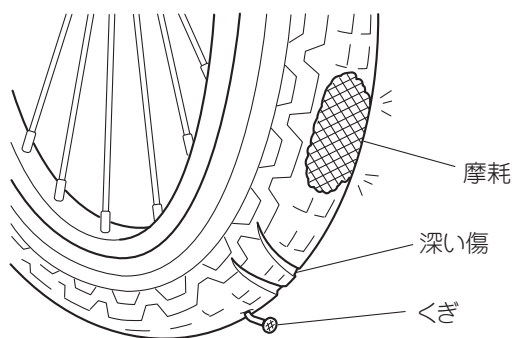
後輪：830kPa (8.3kgf/cm², 8.3bar)

接地面の長さ (L)

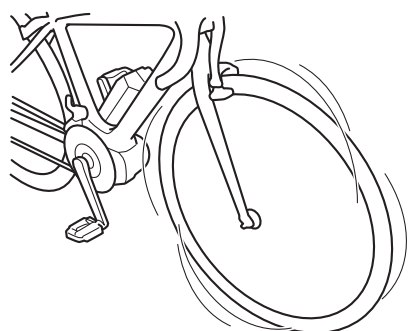
前輪：70 ～ 80mm

後輪：85 ～ 95mm

5 章 お乗りになる前に

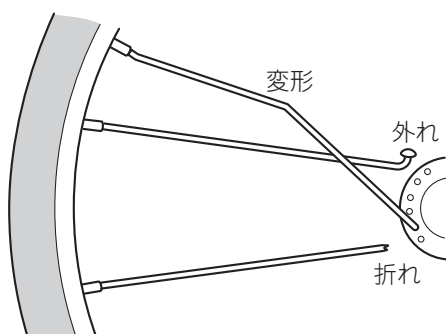


- タイヤが摩耗していないか、深い傷はないか、異物やくぎなどが刺さっていないかを点検します。

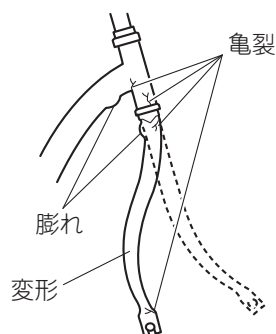


*6 前後車輪とスポークの点検

- YPJ を持ち上げて車輪を回転させ、前後車輪にゆるみやがたつき、ふれがないかを点検します。
また、持ち上げてクイックリリースのゆるみやがたつきを点検します。



- スポークが折れたり、外れたり、変形していないかを点検します。



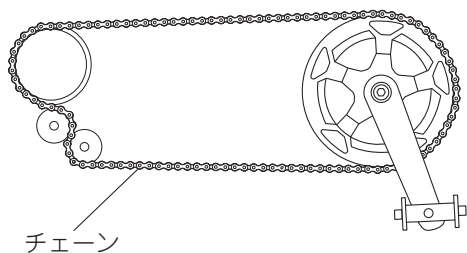
*7 フレームと前フォークの点検

- 変形や亀裂、膨れなどの異常がないかを点検します。

5 章 お乗りになる前に

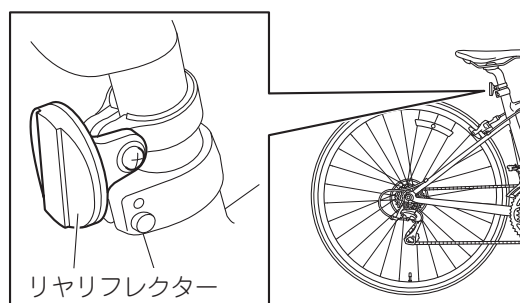
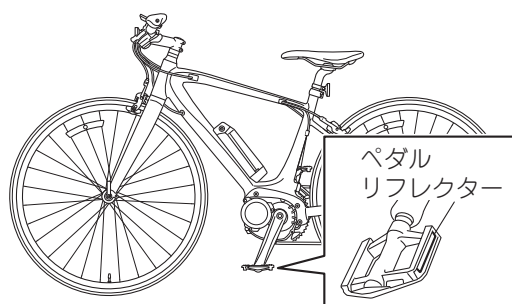
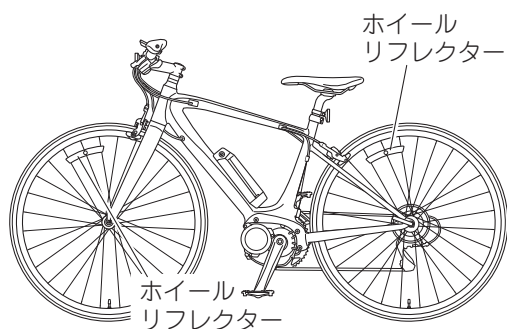
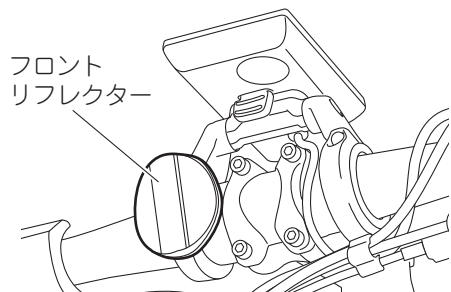
*9 チェーンの点検

- 油切れがなく、ペダルを手で動かしたときに滑らかに動くか、小石などの異物がはさまっていないかを点検します。



*10 フロントリフレクター・ホイールリフレクター・ペダルリフレクター・リヤリフレクターの点検

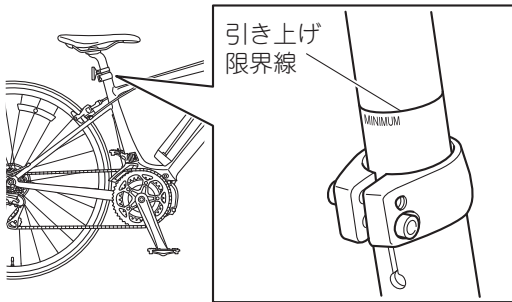
- フロントリフレクター・ホイールリフレクター・ペダルリフレクター・リヤリフレクターに汚れ、破損がないか点検します。



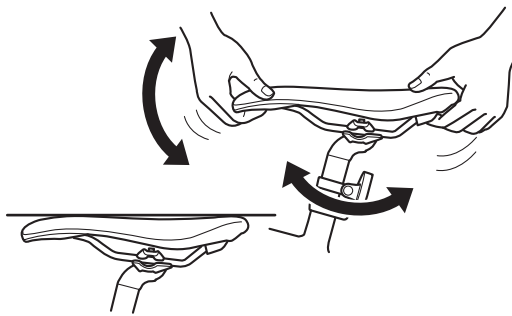
5 章 お乗りになる前に

*12 サドルの状態

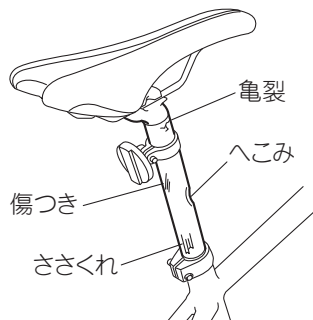
- シートポストにある引き上げ限界線が隠れるまで差し込まれているかを確認します。



- シートバンドにゆるみがないかを確認します。
- サドルの前後を持って動かし、力を入れても回らないことを確認します。
- サドル上面がほぼ水平に固定されていることを確認します。



- シートポストに傷つき、ささくれ、へこみ、亀裂などの異常がないかを点検します。



5 章 お乗りになる前に

バッテリー残量の確認

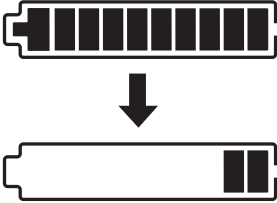
バッテリーにどの程度の残量が残っているか、どの程度充電されているかの目安を確認することができます。確認は液晶マルチファンクションディスプレイのバッテリー残量メーターと、バッテリーのバッテリー残量ランプのいずれかで行うことができます。

要 点

バッテリーの残量が0（ゼロ）になっても普通の自転車として走行することができます。

バッテリー残量メーターの表示とバッテリー残量の目安

液晶マルチファンクションディスプレイにバッテリー残量を表示します。

バッテリー残量メーターの表示	バッテリー残量の目安	適応状態
	100 ～ 11%	バッテリー残量が 100% から 11% の間は、バッテリー残量が 10% 減少するごとに、バッテリー残量メーターのセグメントが 1 個ずつ減少していきます。
 遅い点滅 <0.5 秒毎>	10 ～ 1%	バッテリー残量が 10% から 1% の間は、一番下のセグメントが遅い点滅をします。バッテリー残量が残ります。
 速い点滅 <0.2 秒毎>	0%	バッテリー残量が 0（ゼロ）になりました。

5 章 お乗りになる前に

バッテリー残量ランプの表示とバッテリー残量の目安

バッテリーのバッテリー残量ランプは以下のように表示します。
バッテリー残量を確認するときは、残量表示ボタンを押します。

バッテリー残量ランプの表示	バッテリー残量の目安	適応状態
	100 ~ 75%	満充電（F）から1灯ずつ残量ランプが減少していきます。
	74 ~ 50%	
	49 ~ 25%	
	24 ~ 11%	
 1灯目の遅い点滅 <0.5秒間隔>	10 ~ 1%	バッテリー残量が残りわずかです。
 1灯目の速い点滅 <0.2秒間隔>	0%	バッテリー残量が0（ゼロ）になりました。

5 章 お乗りになる前に

充電あたりの走行できる距離

1 回の充電で走行できる距離の目安は、以下の表のようになります。

なお、走行できる距離は走行モードによっても異なります。

走りかた	走行距離				
	10km	20km	30km	40km	50km
標準パターン *1 	ハイモード 14km スタンダードモード 22km エコモード 48km				
4 度登坂連続パターン *2 	ハイモード 5km スタンダードモード 7km エコモード 14km				

*1 標準パターンとは

勾配 7.0% (4 度) の上り坂を変速位置〈前 1 速、後 6 速〉で、その他を変速位置〈前 2 速、後 9 速〉で、連続走行した場合をいいます。

*2 4 度登坂連続パターンとは

勾配 7.0% (4 度) の坂道を変速位置〈前 1 速、後 6 速〉で、速度 10km/h で連続走行した場合をいいます。

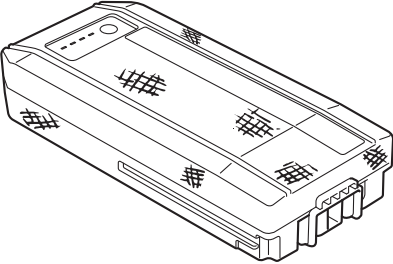
要 点

上記データは、新品バッテリーを常温 15 ～ 25 ℃で使用し、積載重量は 65kg (乗員および荷物を合計した重量)、無風の平滑乾燥路を走行したときの弊社データです。

5 章 お乗りになる前に

走行距離が短くなる環境や使いかた

- 以下の状況で走行した場合は、走行距離が短くなります。

発進、停止の回数が多い 	急な坂道が多い 	路面の状態が悪い 
積載重量が重い 	向かい風が強い 	気温が低い 
バッテリーが劣化している 		

- 整備不良の場合も、走行距離が短くなります。

走行距離が短くなる整備不良の例：

- ・ タイヤの空気圧が低下している
- ・ チェーンが滑らかに動かない
- ・ 常にブレーキが効いている

5 章 お乗りになる前に

荷物を積載するには

この YPJ は、キャリアやバスケットを取り付ける設計をしていません。荷物はリュックサックなど身につけるバッグに入れてください。



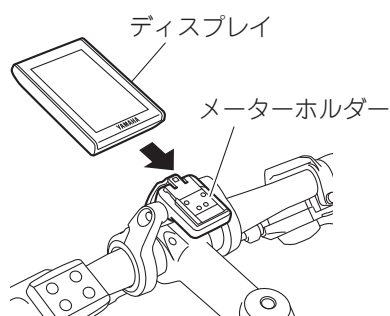
⚠ 警告

この YPJ の最大積載重量（乗員の体重と荷物の積載重量の合計）は 90kg です。最大積載重量を超えないようにしてください。

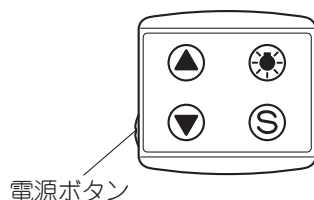
6章 乗りましょう

発進のしかた

- 1 液晶マルチファンクションディスプレイを車体に取り付けます



- 2 サドルにまたがります
- 3 ペダルに足をかけずに、スイッチユニットの電源ボタンを押し電源を入れます



- 4 ペダルをゆっくり踏み込みます

⚠ 警告

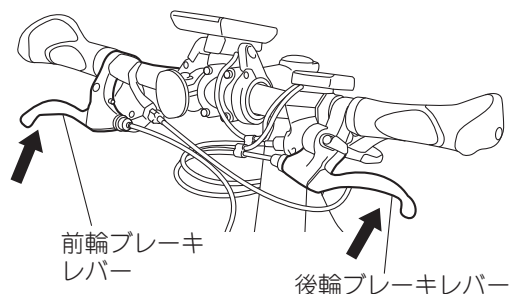
- けんけん乗り（片足でペダルをこぎながら助走し、反動をつけてサドルにまたがる乗りかた）はしないでください。転倒や接触によるけがのおそれがあります。
- 自転車を取り入れても良い公園や広場など安全な場所でよく練習し、パワーアシストの特徴に充分慣れてから一般道路でお乗りください。

要 点

ペダルに足をかけた状態で後ろにさがろうとすると、パワーアシストシステムが作動して後ろにさがりにくなります。ペダルから足を降ろして数秒間待ってから後ろにさがってください。

6章 乗りましょう

ブレーキのかけかた



ブレーキをかけるときは、必ず前後ブレーキを併用し、後輪ブレーキを先にかけてから前輪ブレーキをかけます。

坂道では、ブレーキを前後ともにかけて安全な速度で走行してください。とくに長い下り坂を前後どちらかのブレーキだけを使って走行すると、ブレーキが過熱して効かなくなるおそれがあります。

雨天などでブレーキがぬれているときは、制動距離が長くなります。ブレーキを前後ともにかけてゆとりあるブレーキ操作で安全運転を心がけてください。

⚠ 警告

片側だけのブレーキ操作はしないでください。スリップして転倒によるけがのおそれがあります。

降車のしかた

1 前後ブレーキをかけ、停車します

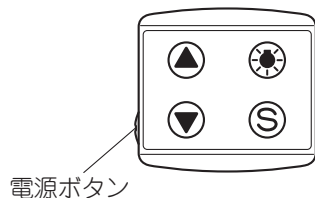
完全に停止してから、ブレーキレバーを握ったままゆっくりと降車します。

⚠ 警告

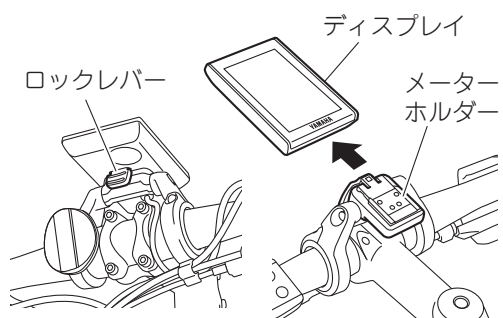
走行直後のブレーキ部を触らないでください。ブレーキを頻繁に使用した場合、ブレーキ部が高温になることがあります。



2 スイッチユニットの電源ボタンを押し電源を切ります



6章 乗りましょう



- 3** 液晶マルチファンクションディスプレイを車体から取り外します

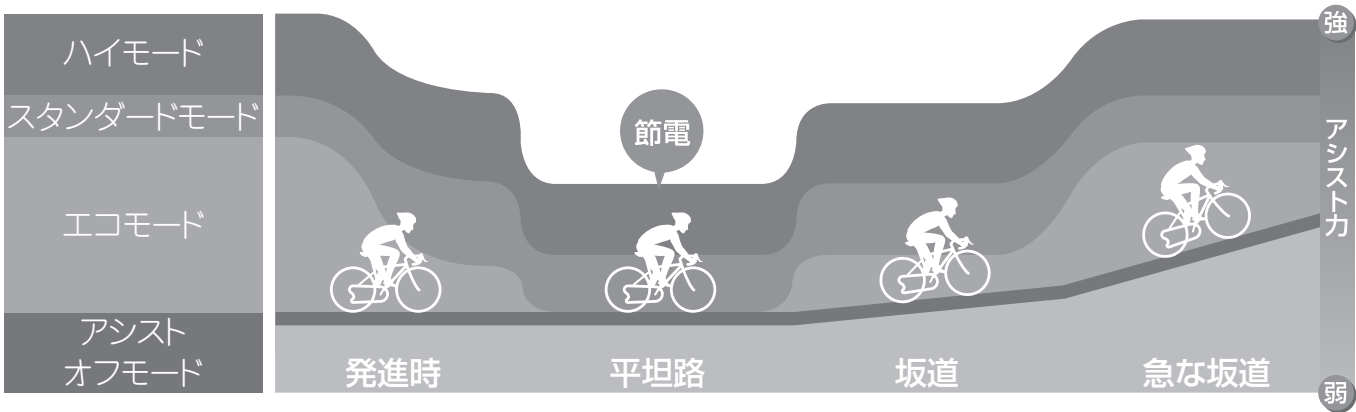
6章 乗りましょう

快適に走行するために

快適に走行するために、上手に走行モードと変速位置を切り替えましょう。

上手な走行モードの選びかた

走行モードは道路の状況などを考え、上手に選んで快適に走行しましょう。



※ このイラストはイメージであり、走行条件（路面の状況、風など）によって変化します。

ハイモード	発進から高速度までパワフルにアシストするモード
スタンダードモード	パワーと距離を両立するモード
エコモード	発進から低速走行時に軽くアシストするモード
アシストオフモード	メーターの機能を活かしたままアシストをオフにできるモード

初回点検（2 か月目点検）と定期点検

安全にお乗りいただくために、お買い上げいただいてから 2 か月目の初回点検と、6 か月ごとの定期点検を販売店で実施してください。

初回点検（2 か月目点検）

工場では十分な検査を実施した後に出荷していますが、まれに使用後 1 ～ 2 か月の間にボルトなどのゆるみが生じることがあります。

お買い上げいただいた販売店に保証書／点検・整備の記録をお持ちの上、お買い上げいただいてから 2 か月目に初回点検を受けてください。初回点検（2 か月目点検）は、お買い求めいただいた販売店での実施に限り無料となります。

また、ご使用状況などにより部品交換が必要な場合は有料となる場合がありますので、あらかじめ販売店にご確認ください。

点検・整備項目については、保証書／点検・整備の記録をご覧ください。

定期点検

いつまでも安全にお乗りいただくため、お買い求めいただいてから 6 か月目以降は、半年ごとに定期点検をお受けください。（定期点検は有料となります。）

定期点検は、お買い求めいただいた販売店に保証書／点検・整備の記録をお持ちの上、お受けください。消耗した部品や、異常箇所をそのままにしてご使用いただきますと、大変危険です。

また、定期点検を実施いただかない場合は、保証の適用を受けられないことがありますので、あらかじめご了承ください。

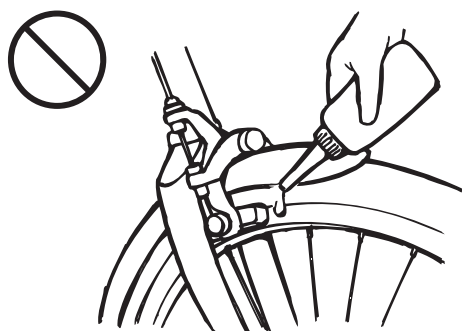
点検・整備項目については、保証書／点検・整備の記録をご覧ください。

警告

- 定期的に販売店で点検を受けてください。
- ブレーキワイヤーは異常がなくても 2 年ごとに交換してください。ブレーキが効かなくなったり、スリップして転倒によるけがのおそれがあります。

8 章 お手入れと保管

お手入れのしかた



⚠ 警告

ブレーキの制動面やタイヤ、リムなどに防錆剤やワックスなどの油脂類を付着させないでください。油脂類が付着するとブレーキが効かなくなり、衝突・けがのおそれがあります。

注意

- YPJ は日常防水性を備えていますが、ホース先端をすぼめて圧力のある水を直接かけたり、高圧洗浄機やスチーム洗浄機は使用しないでください。内部に水が入り、故障の原因となることがあります。
- タイヤやブレーキシューなどのゴム類にワックスを付着させないでください。ヒビ割れの原因となります。
- YPJ によってはツヤ消し塗装（マット塗装）が施されています。ツヤ消し（マット塗装）部分のお手入れでは、以下の点にご注意ください。
 - ・ 洗車ブラシを使用しないでください。塗装面を傷つけることがあります。
 - ・ ワックスを塗布しないでください。塗装面がくすむなど、外観が変化することがあります。
 - ・ コンパウンドを使用しないでください。表面が研磨されて、光沢がでることがあります。

金属部のお手入れ

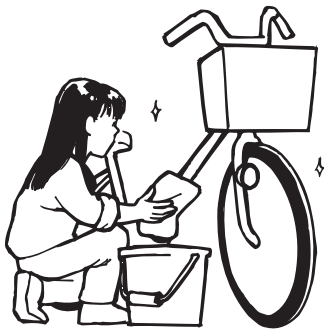
スポークなどの金属部は、防錆剤（ヤマループ 180 防錆潤滑剤）を布に吹き付けてふいてください。



8 章 お手入れと保管

フレームなど塗装部のお手入れ

汚れをしっかりと取り除いた後、乾いたタオルに少量のワックスを取ってみがいてください。

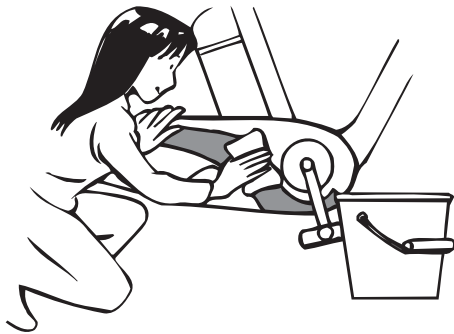


カーボン製部品やバッテリー・樹脂カバー類のお手入れ

水を含ませ固く絞ったタオルなどでふき取ってください。

注意

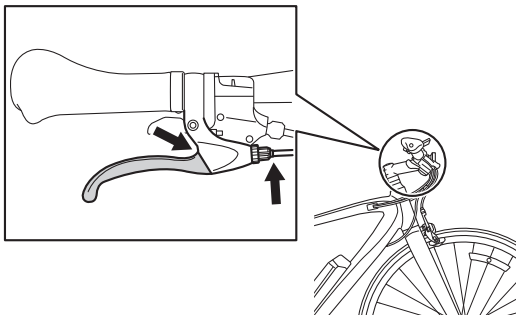
ガソリンや灯油、アルカリ性あるいは強酸性のクリーナー、およびその他の溶剤などを付着させないでください。ひび割れなどの原因になります。



可動部のお手入れ

以下に指定した可動部に少量の機械用油を注油してください。余分な油は乾いた布などでよくふき取ってください。注油する量が多すぎるとほこりを付着させ、故障の原因になることがあります。

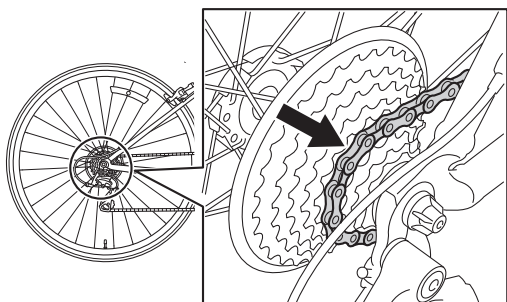
左右ブレーキレバーのブレーキワイヤー取り付け部
左右とも注油してください。



8 章 お手入れと保管

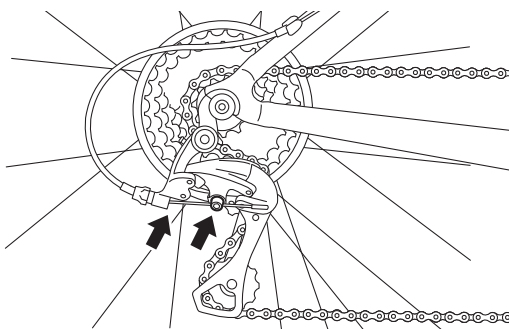
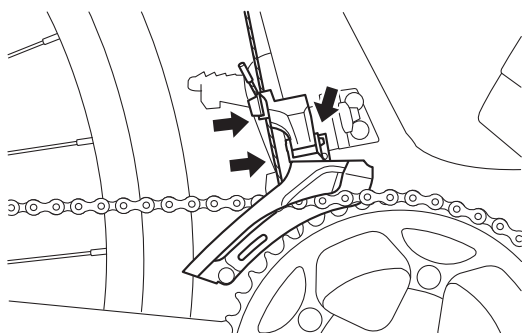
チェーン

ペダルを回しながら注油してください。



ディレイラー

前後とも注油してください。

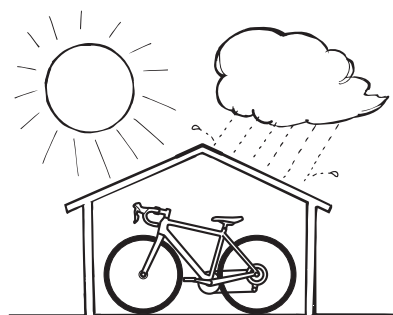


保管のしかた

保管に適した場所

以下の保管に適した場所で保管してください。

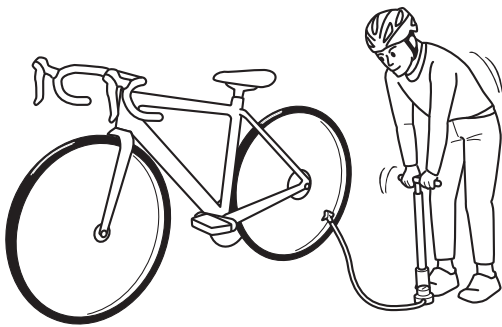
- 平坦で安定が良いところ
- 風通しがよく湿気のないところ
- 雨つゆや直射日光が当たらないところ



8 章 お手入れと保管

保管するときは

- タイヤの傷みを防ぐために、空気を適正空気圧まで入れてください。

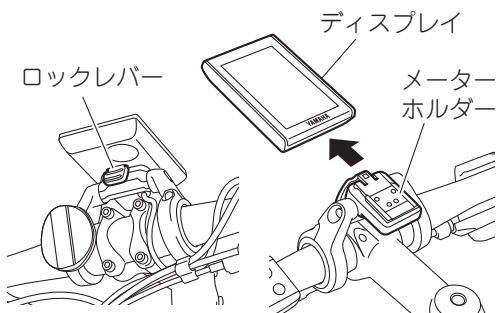
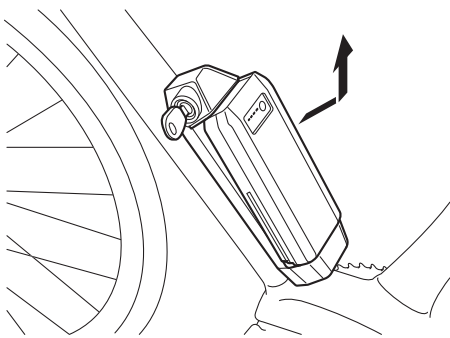


最大空気圧

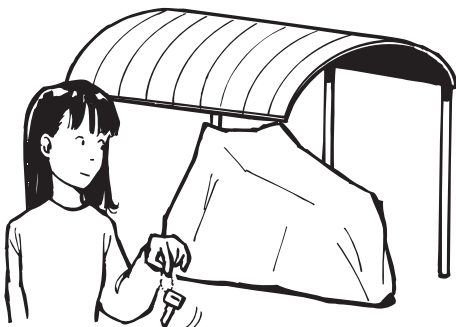
前輪：830kPa (8.3kgf/cm², 8.3bar)

後輪：830kPa (8.3kgf/cm², 8.3bar)

- いたずらや盗難を予防するためにバッテリーと液晶マルチファンクションディスプレイを取り外し、ワイヤーロック（別売品）などを施錠してください。ワイヤーロックなどのご購入の際は、販売店にご相談ください。



- 屋外ではサイクルカバー（別売アクセサリ品）をかけてください。ご購入の際は、販売店にご相談ください。



8 章 お手入れと保管

長期保管（1 か月以上）と長期保管後の再使用

長期保管（1 か月以上）するときは

1 か月以上の長期間にわたり使用しないときは、バッテリーを取り外し以下の要領で保管してください。

- バッテリー残量を 1 ～ 2 灯の点灯状態にし、屋内の涼しい（15 ～ 25 ℃）、湿気のない場所で保管してください。
- 月に1度はバッテリー残量を確認し、1 灯点滅になっているときは 10 分程度充電してバッテリーの残量が著しく低下しないようにしてください。

要 点

- バッテリーは「満充電（F）」または「空（E）」の状態で放置すると劣化が早まります。
- 自己放電により保管時もわずかず放電し、バッテリー残量は低下します。

長期保管後に再使用するときは

6 か月以上保管して再び使用する場合は、販売店で点検・整備（有料）をお受けください。

また、使用する前にバッテリーを充電してください。

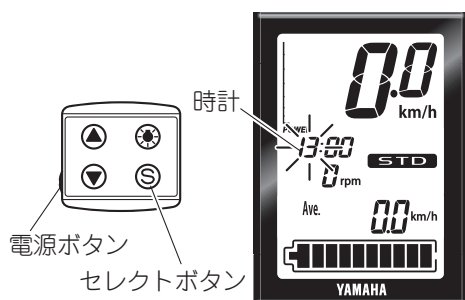
要 点

バッテリーの状態により、充電時間が延びることがあります。

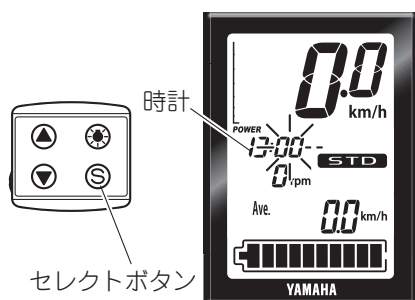
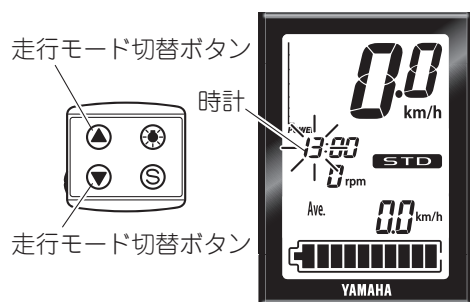
時刻調整のしかた

時刻調整は、次の方法で調整ください。

- 1 液晶マルチファンクションディスプレイを車体に取り付けます
- 2 スイッチユニットのセレクトボタンを押しながら、電源ボタンを押し、時計の「時」の表示が点滅するまで押し続けます
時計の「時」が点滅したら、セレクトボタン、電源ボタンを放します。



8 章 お手入れと保管



3 走行モード切替ボタンで時計の「時」を調整します

走行モード切替ボタン “▲” を押すと、数字が進みます。押し続けると、早く進みます。

走行モード切替ボタン “▼” を押すと、数字が戻ります。押し続けると、早く戻ります。

4 セレクトボタンを押します

時計の「分」が点滅します。走行モード切替ボタンで調整します。

要 点

セレクトボタンを押すごとに、時計の「時」と「分」の点滅を切り替えます。

5 電源ボタンを押して、時刻調整を終了します

液晶マルチファンクションディスプレイ内蔵ボタン電池の交換のしかた

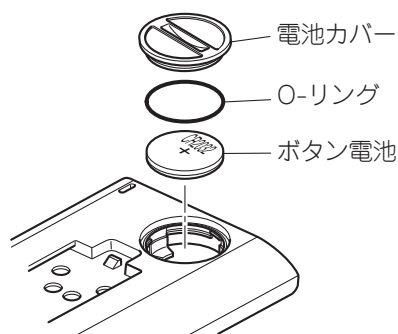
液晶マルチファンクションディスプレイに内蔵するボタン電池は交換することができます。液晶マルチファンクションディスプレイ裏側にある電池カバーを取り外してボタン電池を交換してください。

⚠ 警 告

- ボタン電池は誤って飲み込まないように管理し、定められた方法で処理してください。
- 指定のボタン電池をご使用ください。異なるボタン電池を使用すると、破裂・発火するおそれがあります。
- ボタン電池を交換するときは、向きを正しく取り付けてください。プラス（+）、マイナス（-）を逆に取り付けると、破裂、発火するおそれがあります。

注 意

- ご自身での交換作業に自信がない方は、販売店にご依頼ください。
- O-リングを忘れずに組み付けてください。



8 章 お手入れと保管

指定ボタン電池：
リチウムボタン電池
型番：
CR2032

9 章 もしもこんなときは

故障かな？と思ったら

以下の表に従ってお調べいただき、直らない場合は販売店にご相談ください。

ペダルが重い・アシストしない

症状および確認内容	対処方法	ページ
スイッチユニットの電源は入っていますか？	電源を入れてください。	26
アシストオフモードになっていませんか？	アシストオフモードの特徴です。アシストは停止しています。 必要に応じて走行モードを切り替えてください。	26 66
バッテリーは確実に取り付けられていますか？	充電済のバッテリーを確実に取り付けてください。	45
液晶マルチファンクションディスプレイは確実に取り付けられていますか？	液晶マルチファンクションディスプレイを確実に取り付けてください。	32
バッテリー残量メーターは0（ゼロ）の速い点滅をしていませんか？	バッテリーの残量が0（ゼロ）です。充電をしてください。	45 58
タイヤの空気圧が低くありませんか？	自転車用空気入れを使用し、適切な空気圧まで空気を入れてください。	50
スイッチユニットの電源を入れてから、停車したまま5分以上ペダルに踏む力をかけない状態が続いていませんか？	自動電源オフ機能が作動しました。再度、電源を入れなおしてください。	3 26
気温が高いところで使用していませんか？ または走行負荷が大きい走りかた（長い坂道や重い荷物を積載）をしていませんか？	バッテリーまたはドライブユニットの温度が上がったための制御で、異常ではありません。温度が下がれば回復します。YPJへの負荷を軽くし、バッテリーやドライブユニットを少し休ませてから再度使用してください。 ⇒通常使用している変速位置よりシフトダウンしてご利用いただくと、症状がでにくくなります。	34
気温が低いところで使用していませんか？	気温が暖かくなると回復します。また、バッテリーを温度が15～25℃の屋内で保管しておいて使用すると、この症状を軽くすることができます。	—
液晶マルチファンクションディスプレイが異常表示や異常点滅をしていませんか？	「液晶マルチファンクションディスプレイが異常表示・異常点滅する」（77ページ）をご参照ください。	77

9 章 もしもこんなときは

症状および確認内容	対処方法	ページ
走行中に液晶マルチファンクションディスプレイの表示が全て消灯した。	パワーアシストシステム内部のトラブルが考えられます。 ご使用を止め、販売店で点検・整備をお受けください。	—
電源ボタンを押しても電源が入らない。		

走行距離が短い

症状および確認内容	対処方法	ページ
十分に充電が行われていますか？	満充電（F）になるまで充電してください。	48
バッテリーが劣化していませんか？	バッテリーを交換してください。	79
気温が低いところで使用していませんか？	気温が暖かくなると回復します。また、バッテリーを温度が 15 ～ 25 ℃の屋内で保管しておいて使用すると、この症状を軽くすることができます。	61

充電できない

症状および確認内容	対処方法	ページ
電源プラグはしっかり接続されていますか？ また、バッテリーは確実に接続されていますか？	もう一度、接続をやりなおして充電してください。	45
バッテリーのバッテリー残量ランプは点灯していますか？		
充電中に、バッテリーのバッテリー残量ランプが 4 灯同時に点滅する。	故障ではありません。バッテリー内部の温度が過度に高いか、または過度に低くなっていて、充電待ちの状態です。バッテリー内部温度が充電に適した温度になると充電が開始されます。	48



異音・異臭あるいは煙がでる

症状および確認内容	対処方法	ページ
パワーアシスト機構から普段と異なる音や異臭、煙がでる。	ご使用を中止してすぐにスイッチユニットの電源を切り、販売店で点検をお受けください。	50
充電器から異音や異臭、煙がでる。	充電を中止してすぐに充電器の電源プラグを抜き、販売店で点検をお受けください。	45

9 章 もしもこんなときは

充電器が熱い

症状および確認内容	対処方法	ページ
手で触れることができる程度。	充電中は多少の熱（約 40 ～ 60 ℃）を持ちますが、故障ではありません。	—
手で触れることができないほど熱い。	使用を中止してすぐに充電器の電源プラグを抜き、販売店で点検をお受けください。	—

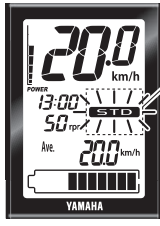
バッテリー残量メーター／バッテリー残量ランプが表示しない

症状および確認内容	対処方法	ページ
アシストはするが、液晶マルチファンクションディスプレイのバッテリー残量メーターが消灯している。	バッテリーを取り外し、バッテリーの接続端子を乾いた布や綿棒で清掃してください。清掃後、バッテリーを取り付けてください。	45
充電したが、液晶マルチファンクションディスプレイのバッテリー残量メーターが満充電表示しない。	温度が 15 ～ 25 ℃の屋内で、もう一度充電してください。	44
充電終了後、バッテリーのバッテリー残量表示ボタンを押してもバッテリー残量ランプが全部点灯しない。	再度、接続しなおして充電してください。 ⇒充電の途中で、電源プラグまたはバッテリーが抜けたおそれがあります。	45
バッテリーのバッテリー残量表示ボタンを押してもバッテリー残量ランプが表示しない。	故障ではありません。新品または長期保管されたバッテリーは、バッテリーのバッテリー残量表示ボタンを押しても表示しません。充電すると表示します。	—

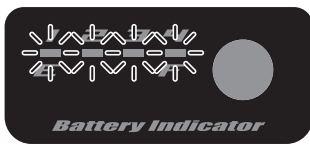
液晶マルチファンクションディスプレイが異常表示・異常点滅する

症状および確認内容	対処方法	ページ
 スピードメーターが“Er”と表示する。	エラー信号またはパワーアシストシステム内部のトラブルが考えられます。 液晶マルチファンクションディスプレイを確実に取り付けてください。 また、自動的に全ての表示類が消灯するまで 5 分間放置してください。 消灯を確認した後、再度電源を入れてください。 電源を入れなおしても同じ症状がでる場合は、ご使用を止め、販売店で点検をお受けください。	32
 走行モード表示とバッテリー残量メーターが交互に速く点滅する。		

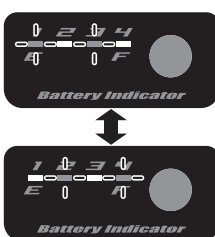
9 章 もしもこんなときは

症状および確認内容	対処方法	ページ
 走行モード表示	選択されている走行モード表示が点滅する。 スピードセンサーが正しく信号を検出できない状態が続くと点滅します。しばらく走行を続けるか、電源を入れなおしてください。同じ症状がでる場合は、ご使用を止め、販売店で点検をお受けください。	32

バッテリー残量ランプが異常点滅する

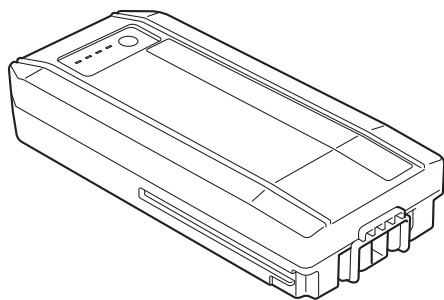
症状および確認内容	対処方法	ページ
 4灯同時速い点滅 <0.1秒間隔>	バッテリーを充電器に接続したとき、またはバッテリー残量表示ボタンを押したとき、バッテリー残量ランプが約2秒間、4灯同時に速く点滅(約0.1秒間隔)する。 故障ではありません。長期使用のお知らせ機能が作動しています。引き続きお使いいただけますが、一充電あたりの走行距離が短く、アシスト力が弱く感じる場合はバッテリーの交換時期です。販売店でバッテリーを交換してください。	80

充電中にランプが異常点滅する

症状および確認内容	対処方法	ページ
	充電中に、バッテリーのバッテリー残量ランプ1灯目と4灯目が同時に点滅する。 保護機能が作動して使用できない状態になっています。販売店でバッテリーを交換してください。	—
	充電中に、バッテリーのバッテリー残量ランプ1灯目と3灯目、2灯目と4灯目が点灯し、交互に点灯と消灯を繰り返す。 接続端子の接触不良が考えられます。バッテリーを一旦充電器から取り外し、再度バッテリーを充電器に取り付けてください。	—

10 章 ごぞんじですか？

バッテリーの特性



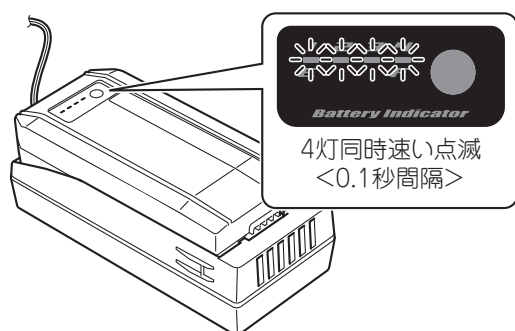
- バッテリーの温度が上がると、アシスト力が低下することがありますが、システム保護制御が作動したためであり故障ではありません。バッテリーの温度が下がると回復します。また、変速位置をよりシフトダウンしてご利用いただくと、回避することができます。
- バッテリーの温度が下がると、一充電あたりの走行距離が短くなったりアシスト力が低下することがありますが、リチウムイオンバッテリーの特性であり故障ではありません。温度が上がると回復します。また、バッテリーを温度 15 ～ 25 ℃の室内で保管してからご使用いただくと、症状を軽減することができます。
- 使用していなくても、わずかずつ放電します。ご使用いただく前に充電することで回復します。

バッテリーの寿命と交換

バッテリー容量は、充放電を繰り返し（700 ～ 900 サイクル^{*1}）行くと、新品のときの約半分にまで低下します。また、長期間保管しているときも、わずかずつですがバッテリー容量は低下します。バッテリー容量が低下すると一充電あたりの走行距離が短くなり、アシスト力が弱く感じることがあります。充電をしても回復する兆しがなければバッテリーの交換時期です。できるだけ早めにバッテリーを交換してください。なお、この場合の交換は有料となります。

^{*1} 充放電の「1 サイクル」とは、満充電にしたバッテリーをバッテリー残量が 0（ゼロ）になるまで使用し、再び満充電にする一連の工程をいいます。

10章 ごぞんじですか？



長期使用お知らせ機能

長期間の使用によりバッテリー容量の低下が想定されるため、バッテリー交換時期の目安として長期使用をお知らせする機能を備えています。

お知らせ開始年数^{*2} またはお知らせ開始総充電容量^{*3} のいずれかいっぽうに達すると、約2秒間、バッテリー残量ランプが4灯同時に速く点滅(約0.1秒間隔)してお知らせします。長期使用のお知らせを開始する条件は、以下のとおりです。

お知らせ開始年数^{*2}：

10年

お知らせ開始総充電容量^{*3}：

1800Ah

^{*2} お知らせ開始年数とは、新品時、最初に充電したときからバッテリー内コンピューターが積算を始めて現在までの累積期間です。

^{*3} お知らせ開始総充電容量とは、新品時、最初に充電したときから現在までの充放電を繰り返した結果、充電された容量の総和です。

要 点

- 充電器に接続した場合は、長期使用のお知らせを約2秒間したのち、自動的に充電が始まります。
- 長期使用お知らせ機能が作動しても引き続きお使いいただけますが、一充電あたりの走行距離が短く、アシスト力が弱く感じる場合はバッテリーの交換時期です。バッテリーの交換については、販売店にご相談ください。

バッテリー交換時のお願い

リチウムイオンバッテリーは、資源の有効な利用の促進に関する法律（資源有効利用促進法）で、使用後の回収および再資源化が義務付けられています。交換したバッテリーの回収は、ご購入の販売店にご依頼ください。



10章 ごぞんじですか？

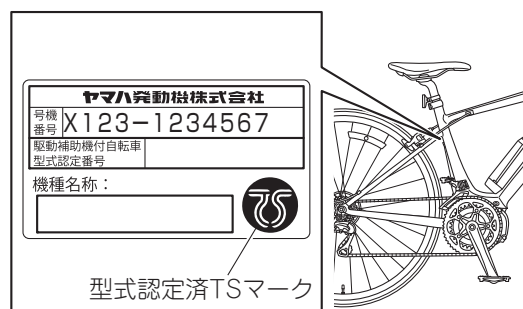
保証制度

お買い上げいただきました YPJ を構成する純正部品に、材質または製造上による不都合が生じた場合は、消耗部品を除き、保証書に示す条件に従いその部品の交換または補修により無料で修理を行います。詳しくは保証書をご覧ください。

型式認定済 TS マーク

型式認定済 TS マークは、道路交通法の規定に適合し、国家公安委員会の型式認定を取得した製品にのみ表示することができ、安心してご使用いただけるあかしです。

型式認定済 TS マークは、フレームのシートパイプ部に貼付されています。なお、このマークには、交通傷害保険は付帯していません。



普通自転車点検整備済 TS マーク（保険つき）

普通自転車点検整備済 TS マーク（保険つき）は、工場出荷時の自転車には貼付されておりません。

普通自転車点検整備済 TS マーク（保険つき）は、お客様の求めに応じて「自転車安全整備店」の自転車安全整備士が有償で点検・整備をし、道路交通法に基づく安全な普通自転車であること確認したあかしのマークとして貼付することができます。

この TS マークを貼付した自転車には、傷害保険と賠償責任保険が付帯され、万一の事故の際に利用することができます。詳しくは自転車安全整備店（TS マーク取扱店）にご相談ください。



自転車保険加入の勧め

万一の事故に備え、自転車用対人・対物賠償保険のご加入をお勧めします。

詳しくは、お買い求めいただいた販売店または保険会社にご相談ください。

10
章

10 章 ごぞんじですか？

3. 盗難事故にあわれた場合の対応（盗難保険手続き要領）

- ① すみやかに最寄りの警察署へ「盗難届」をご提出ください。
- ② お買い上げいただいた販売店までご連絡ください。
※ 盗難発生の日から 30 日以内にご連絡いただかない場合、保険が適用されないことがありますのでご注意ください。
- ③ 盗難保険手続きに必要な以下の書類を添えて、お買い上げいただいた販売店までご提出ください。
【提出書類】
 - 届出警察署発行の盗難証明書、または届出日・届出警察署・盗難日・受理番号を記載した書面
 - 盗難車の保証書（写しでも可）
 - 盗難保険手続き依頼書（販売店からご案内いたします）
 - その他必要書類※ 書類が到着後、調査期間として約 1 ヶ月かかることがありますのでご了承ください。

4. 盗難車の所有権

「盗難車が発見された場合、その所有権は保険会社に帰属すること」に同意いただいた上で、お手続きください。

5. 盗難保険が適用されない主な場合

- ① 提出書類が全てそろわない場合。
 - ② 部品等、本体の一部のみに生じた盗難による損害。
 - ③ 車両所有者の故意、重大な過失、所有者の親族・使用人などによる盗取。
 - ④ 警察が盗難としての届出を受理しない場合。
 - ⑤ 地震、風水害、火災、暴動に起因して発生した盗難事故など。
 - ⑥ チェーンロック（別売）等盗難抑止策を実施していない場合。
- * なお、上記は保険の概要を記載したものであり、実際の保険金支払いに関しては盗難保険普通保険約款および特約条項に従います。
- * 本商品は損害保険契約者保護機構の補償制度対象外であり、引受保険会社の破綻時の欠損状況により、保険金が減額、または保険金の支払いが一定期間凍結されることがあります。

10 章 ごぞんじですか？

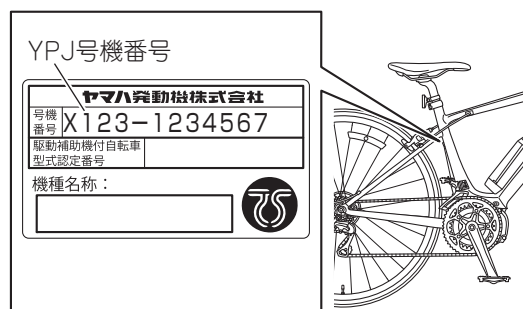
車両情報

おぼえのために裏表紙のスペースにご記入ください。

YPJ 号機番号

YPJ 号機番号は、車両を正確に特定するための情報をコード化したものです。アクセサリ品の購入など販売店にご相談の際には、モデル名と一緒に YPJ 号機番号も正確にお知らせください。

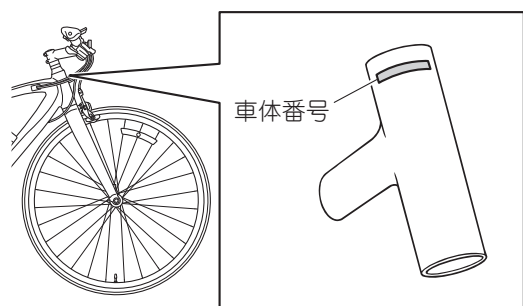
YPJ 号機番号は、フレームのシートパイプ部に貼付される製品ラベルに印字されています。



車体番号

車体番号は、防犯登録に使用します。

車体番号は、フレームのヘッドパイプ部の正面に打刻されています。



キー番号

キー番号は、スペアキーを作製（有料）するときが必要です。キーの作製については、お買い求めの販売店にご相談ください。

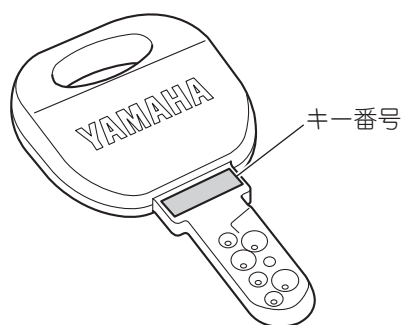
キー番号は、キー本体に打刻されています。

要 点

キーは 3 本付属していますので、2 本は予備として大切に保管してください。

防犯登録番号

防犯登録番号は防犯登録票から転記してください。



10 章 ごぞんじですか？

廃棄するときは

YPJを廃棄するときは、お住まいになる地域のルールに従ってください。ご不明の場合は、お買い求めいただいた販売店にご相談ください。

また、リチウムイオンバッテリーは、資源有効利用促進法に基づきリサイクルが義務付けられています。バッテリーを廃棄するときは、お買い求めいただいた販売店へお持ちください。



11 章 製品仕様

		YPJ-C	
機種名		PW70CM	PW70CXS
全長		1,720mm	1,720mm
全幅		590mm	590mm
軸間距離		1,040mm	1,040mm
サドル高		855 ～ 1,000mm	795 ～ 940mm
適応身長		163cm 以上	153cm 以上
車両重量		16.1kg	16.0kg
タイヤ	サイズ	700 × 28C	
	空気圧（前）	830kPa（8.3kgf/cm ² , 8.3bar）	
	空気圧（後）	830kPa（8.3kgf/cm ² , 8.3bar）	
リム形状		HE	
バルブ型式		仏式	
変速機方式		外装変速 18 速（前 2 速，後 9 速）	
駆動方式		チェーン式	
制動装置	前	サイドプル形キャリパーブレーキ	
	後	サイドプル形キャリパーブレーキ	
充電あたりの走行できる距離		14km ^{*1}	
補助速度範囲 （変速位置〈前 2 速， 後 9 速〉）	比例補助	0 ～ 10km/h 未満	
	逡減補助	10 ～ 24km/h 未満	
電動機	形式	ブラシレス DC 式	
	定格出力	240W	
補助力制御方式		踏力比例制御方式	
蓄電池	品番・種類	X0N-82110-00（ブラック）・リチウムイオン電池	
	定格電圧	25.2V	
	定格容量	2.3Ah	
	Typ. 容量	2.4Ah	

11 章 製品仕様

充電器	品番	X0N-8210C-00
	電源	AC100V (50Hz-60Hz)
	消費電力	100W
	充電時間	約 1 時間 ^{*2}

^{*1} 業界新規定の標準パターンで走行したときの弊社データ

バッテリー新品、気温 15 ～ 25℃、車載重量 65kg（乗員および荷物を合計した重量）、平滑乾燥路面、無風、無点灯状態で、ハイモードで走行。

^{*2} お買い求めいただいた YPJ に装備されているバッテリーと充電器を使用して、バッテリーを残量ランプの 1 灯点滅まで使用したとき、満充電までのおおよその時間です。

12章 索引

あ行

異音・異臭あるいは煙がでる	76
液晶マルチファンクションディスプレイ	28
液晶マルチファンクションディスプレイが 異常表示・異常点滅する	77
液晶マルチファンクションディスプレイ 内蔵ボタン電池の交換のしかた	73
液晶マルチファンクションディスプレイの 取り外し・取り付け・角度調整	32
横断歩道をわたるときは一時停止を 忘れずに!	21
お手入れのしかた	68
お乗りになる前の調整	22

か行

カーボン製部品やバッテリー・ 樹脂カバー類のお手入れ	69
快適に走行するために	66
角度調整のしかた	33
型式認定済 TS マーク	81
可動部のお手入れ	69
キー番号	84
機能表示	30
金属部のお手入れ	68
クイックチェックのしかた	41
クイックリリースハブ	38
ケイデンスの表示	29
降車のしかた	64

さ行

サドルの高さ調整のしかた	22
時刻調整のしかた	72
自己診断機能による異常表示	32
自転車の交通ルールを守りましょう	19
自転車保険加入の勧め	81
自動電源オフ機能を備えています	3
車体番号	84
車両情報	84
車輪の組み付けかた	39
車輪の取り外しかた	38
充電あたりの走行できる距離	60
充電器が熱い	77
充電器の取り扱い中 感電や火災を 防ぐために	15
充電時間	47
充電中 感電や火災を防ぐために	17

充電中にランプが異常点滅する	78
充電できない	76
充電に適した環境	44
充電の確認	48
充電のしかた	43, 45
重要ラベルについて	5
乗車前点検	50
上手な走行モードの選びかた	66
初回点検（2 か月目点検）	67
初回点検（2 か月目点検）と定期点検	67
スイッチユニット	26
スイッチユニットと 液晶マルチファンクションディスプレイ ...	25
スピードのだしすぎや急ブレーキは やめましょう	21
スピードメーターの表示	29
セレクトボタン	27
走行距離が短い	76
走行距離が短くなる環境や使いかた	61
走行モード切替ボタン	26
走行モードの表示	28

た行

正しい運転姿勢	22
長期使用お知らせ機能	80
長期保管（1 か月以上）するときは	72
長期保管（1 か月以上）と長期保管後の 再使用	72
長期保管後に再使用するときは	72
定期点検	67
電源ボタン	26
電動補助（パワーアシスト）システムにより 最適なアシスト力が得られます	2
時計	29
『止まれ』の標識があるところでは	21
取り付けかた	33
取り外しかた	33
トリプルセンサーシステムを 採用しています	2

な行

荷物を積載するには	62
-----------------	----

は行

廃棄するときは	85
バックライトボタン	27
発進のしかた	63

バッテリー・充電器の保管中 事故を 防ぐために	18
バッテリー交換時のお願い	80
バッテリー残量が無くなっても普通の 自転車として走行可能です	3
バッテリー残量の確認	58
バッテリー残量メーターの表示	28
バッテリー残量メーターの表示と バッテリー残量の目安	58
バッテリー残量メーター／ バッテリー残量ランプが表示しない	77
バッテリー残量ランプが異常点滅する	78
バッテリー残量ランプの表示と バッテリー残量の目安	59
バッテリーの寿命と交換	79
バッテリーの特性	79
バッテリーの取り扱い中 感電や火災を 防ぐために	14
バッテリーロック	34
パワーメーターの表示	29
ハンドルの高さ調整のしかた	23
ハンドルの取り付け高さ調整	36
ハンドルブラケット	36
ハンドル周り	25
左側面	24
普通自転車点検整備済 TS マーク (保険つき)	81
ブレーキのかけかた	64
フレームなど塗装部のお手入れ	69
ペダルが重い・アシストしない	75
変速位置の注意	35
変速レバー	34
防犯登録番号	84
保管するときは	71
保管に適した場所	70
保管のしかた	70
保証制度	81

ま行

右側面	24
-----------	----

や行

ヤマハ〈YPJ〉盗難保険について	82
USB アダプター	42
USB ポート	27
4 種類の「走行モード」を装備しています	2

わ行

YPJ 号機番号	84
YPJ ご使用中 けがを防ぐために	10
YPJ ご使用中 転倒や衝突事故を 防ぐために	6
YPJ のバッテリー	44

バッテリーと充電器販売のご案内

◆ 2.4Ah リチウムイオンバッテリー
注文番号：X0N-82110-00（ブラック）

◆ 充電器
注文番号：X0N-8210C-00

仕様変更や共通化などにより、部品番号が変更になる場合があります。
ご購入の際は、販売店にご相談ください。

お買い上げいただいたヤマハ＜YPJ＞の記録

おぼえのためにご記入ください。
（表示場所は『10 章ごぞんじですか？』の「車両情報」をご参照ください。）

Y P J 号 機 番 号 : _____

車 体 番 号 : _____

キ ー 番 号 : _____

防 犯 登 録 番 号 : _____

ヤマハ＜YPJ＞最新情報は

<http://www.yamaha-motor.co.jp/pas/ypj/>

ヤマハYPJ 検索

お買い上げいただいた販売店が点検・修理をはじめ、サービスのご相談などをお受けいたします。

お買い上げいただいた販売店

